

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EB203
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	<a href="https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html">https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html</a>
講義コード	1EC000900
講義名	経済成長論
担当者名	申 寅容
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E/L
備考	

科目の趣旨	経済成長は豊かさをもたらす重要な要素である。世界各国の所得水準を比較してみると、日本、アメリカのように豊かな国がある一方、貧しい国もある。豊かな国と貧しい国の1人当たりの所得や生活水準の格差は非常に大きい。この格差は経済学者の関心を引き起こし、近年広い範囲で研究が行われてきた。経済成長論では、豊かな国はどのように豊かで貧しい国はどのように貧しいのか、貧しい国は永遠に貧しいまま残り残されてしまうのか、どうすれば貧しい国は豊かになれるのか、などについて探求する。
授業の内容	経済成長と経済発展の基礎データを利用して国家間の成長の差異について学ぶ。また、経済成長の主要な決定要因や経済成長のためのさまざまな経済政策などについて理論的かつ実証的に学ぶ。理論モデルとして、ソローモデル、内生的成長モデルなどを取り扱う。かつ、実証分析のため、1人当たりGDP、資本ストック、投資、人口、人的資本、所得不平等度などのデータを用いる。また、経済成長に関する最新の論文や書籍などを紹介する予定である。Kumar and Russel (2002), Kruger (2003), Shin (2012), クルーフマン (1997) などを予定している。参考文献の詳細については、教科書・指定図書欄を参照のこと。
科目の到達目標(理解のレベル)	経済成長と経済発展に関する様々な問題を発見し、解決するために必要な経済学の基本的な知識と分析ツールを身につける。所得と成長の国別格差について理解し、その格差をもたらす生産要素の蓄積や生産性の格差などについて理解する。さらに、その生産要素の蓄積と生産性の格差の底にある、より深い決定要因について理解する。国家間の違いを理解し、国際社会の一員として、直面する課題に積極的に取り組み、解決する能力を身につける。
授業形態	講義
授業方法	通常は講師による講義形式での授業を行う。授業中に講師から受講者へ質問することが多い。対面授業(学生と教員が教室で向き合う授業)を原則とするが、新型コロナウイルスの感染状況、教育効果、ティーチングスキルの向上などを考慮した上で、zoom などを利用したオンライン授業やハイブリッド授業を複数回取り入れることを予定している。オンライン授業やハイブリッド授業のスケジュールについてはmanabaiに1週間前までに通知する。
授業計画	<p>【第1回】イントロダクション 内容: ガイダンス、経済成長論のオーバービュー</p> <p>【第2回】経済成長に関する諸事実 内容: 所得水準の諸国間格差、各国間の所得成長率の相違、成長率、年平均成長率</p> <p>【第3回】購買力平価 内容: 一物一価、為替レートと購買力平価、貿易財と非貿易財、バラッサ・サミュエルソン効果</p> <p>【第4回】分析のためのフレームワーク 内容: 散布図と相関、因果関係</p> <p>【第5回】ソローモデル 内容: 資本の性質、生産関数、規模に関して収穫一定、限界生産物、資本の限界生産物逓減、資本分配率</p> <p>【第6回】移行経路と定常状態 内容: 資本蓄積方程式、減価償却、成長率</p> <p>【第7回】ソローモデルの応用 内容: 投資率の変化、投資と貯蓄の関係</p> <p>【第8回】黄金律 内容: 消費の最大化</p> <p>【第9回】マルサス・モデル 内容: マルサス罫、マルサスの均衡から脱出、マルサス・モデルの崩壊</p> <p>【第10回】人口と経済成長 内容: ソロー・モデルによる人口成長、人口成長の変化と成長</p> <p>【第11回】人口転換 内容: 死亡率、死亡転換、死亡率の減少、出生率、出生転換、出生率の減少、後発性の利益、コンプレックス転換、早期転換、多産多死、多産少死、少産少死、人口転換の内生化</p> <p>【第12回】将来の人口トレンド 内容: 人口の予測、死亡率の予測、出生率の予測、人口モメンタム</p> <p>【第13回】高齢化と経済成長 内容: 人口変化の経済的帰結、人口の高齢化、構成効果</p> <p>【第14回】人的資本(1) 基本モデル 内容: 健康という形態の人的資本、教育という形態の人的資本、教育の収益</p>

	<p>【第15回】人的資本(2) 応用 内容: 人的資本の配分比率, 教育の質, 外部効果</p> <p>【第16回】収束理論: 絶対収束と条件収束 内容: 定常状態, 移行経路, 収束, 収束論争, 絶対収束, 条件収束</p> <p>【第17回】発展会計 内容: 生産性水準の格差, 生産性格差の測定</p> <p>【第18回】成長会計 内容: 生産性の伸び率の格差, ソロー残差, 全要素生産性</p> <p>【第19回】経済成長における技術の役割(1) 1国モデルのオーバービュー 内容: 技術進歩の性質, 技術移転, 技術の創出と成長の関係をモデル化, モデルの枠組みと諸前提</p> <p>【第20回】経済成長における技術の役割(2) 1国モデルの応用 内容: 労働のR&amp;Dへの移動効果, 短期と長期</p> <p>【第21回】経済成長における技術の役割(3) 2国モデルのオーバービュー 内容: 技術リーダーと技術フォロワー, モデルの枠組みと諸前提, 技術開発費用</p> <p>【第22回】経済成長における技術の役割(4) 2国モデルの応用 内容: 技術リーダー国のR&amp;Dの増加, 技術フォロワー国のR&amp;Dの増加</p> <p>【第23回】内生的成長モデル 内容: モデルの枠組みと諸前提, 一般的ケース</p> <p>【第24回】最先端技術 内容: 技術変化の速度, 技術の生産関数, 差異のある技術進歩</p> <p>【第25回】効率性 内容: 生産性分解, 効率性の差, 非効率性の形態</p> <p>【第26回】包絡線分析 内容: 包絡線分析, 要因分解</p>
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の前に前回の授業内容やmanabaにあるマテリアル等を確認し、授業に臨むこと。</li> <li>2. 課題がある場合は、事前にmanabaに掲載するので、各自で取り組むこと。</li> <li>3. 課題は成績評価方法・基準の欄に示す通り、評価の10%を占める。</li> <li>4. 課題について、分からないことがある場合は、授業中に質問、またはメールで問い合わせること。問い合わせの解説は課題提出の締め切り後に行う。</li> <li>5. 余裕のある学生は教科書・指定図書の欄にある参考文献を読んでみる。</li> </ol>
成績評価方法・基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済成長論の基礎的な内容を理解しているかどうかを評価する。</li> <li>2. 総合試験(80%)、課題(10%)、平常点(10%)で評価する。</li> <li>3. 総合試験は1回のみ実施する。やむを得ず試験に欠席する場合は必要な手続きをとってください。</li> <li>4. 総合試験はオンラインで実施する予定である。</li> <li>5. 試験問題は選択式と記述式を併用する予定である。</li> <li>6. 試験問題や課題については、受講生の理解度や授業の進捗状況などを考慮し、出題する予定である。</li> </ol>
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	<p>教科書: 指定なし</p> <p>参考文献</p> <p>[1] Weil, D., 2012, Economic Growth, Prentice Hall, 第3版</p> <p>[2] Kumar, S. and Russel, R., 2002, Technological Change, Technological Catch-up, and Capital Deepening: Relative Contributions to Growth and Convergence, American Economic Review, Vol. 92, No. 3, pp.527-548.</p> <p>[3] Shin, I., 2012, Income inequality and economic growth, Economic Modelling, Vol. 29, Issue 5, pp. 2049-2057</p> <p>[4] クルーグマン, P., 1997, クルーグマンの 良い経済学 悪い経済学, 日本経済新聞出版</p>
履修上の留意点	ミクロ経済学, マクロ経済学, 経済学基礎数学の知識が必要である。グラフによる説明が多い。グラフを見て理解できること。
更新日	2024/3/19

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EC208
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	<a href="https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html">https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html</a>
講義コード	1ED000200
講義名	日本経済論
担当者名	茨木 秀行
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	実務経験のある教員による授業科目である。

科目の趣旨	日本経済全般の主要な部分について、検討を加える。近代の日本経済の発展の歴史を踏まえ、主として第二次大戦後の復興から高度成長を経て安定成長、低成長、継続的なデフレ傾向へと変化する過程を理解する。個別の分野にとらわれることなく、こうした中長期的な日本経済の推移、特徴及び課題を検討し、理解することによって、当面する問題とその解決策、今後の方向性を把握することも可能となる。
授業の内容	この授業では、日本経済の様々な分野における基本的な仕組みや事実関係を把握し、現実の経済社会や経済政策が直面している課題について理解を深めることに重点を置いて学習を行う。具体的な内容としては、まず、短期的な景気変動や物価動向、長期的な経済成長などマクロ経済の動向について、基本的な考え方やこれまでの動向について学習する。その上で、日本の産業構造の変化、貿易・投資を通じた企業活動のグローバル化、地球温暖化問題への対応など各論について、主要なポイントを学習する。さらに、人口の少子高齢化や所得格差などの視点を踏まえ、年金・医療・介護などの社会保障、財政・税制の所得分配機能や労働市場のあり方について、その仕組みや課題について学習する。
科目の到達目標 (理解のレベル)	日本のマクロ経済動向や産業の動向、及び主要な経済関連分野における政策課題を理解するための基本的な知識や視点を身に付ける。あわせて、経済に関する基本的な統計データ・資料の見方の指導を行うとともに、日ごろのニュースや新聞・雑誌等の経済関連記事の内容を適切に理解し評価できる能力を身に付ける。これらの習得により、日本経済の課題について、問題の所在や解決策の方向性について、自分の意見を構築する能力を身に付ける。
授業形態	講義
授業方法	基本的に講義形式で授業を行う。授業スライドに基づき、各回で取り上げる課題について、基礎的な知識の解説、現状・動向・制度についての説明、関連する経済統計データや資料の見方の指導を行うとともに、現在直面している課題について、その背景や考え方を説明する。毎回の講義で授業の理解度を測るための簡単な課題を課す。期末には学期全体を総括した復習と、理解が不足している点についての補足を行う。
授業計画	<p>【第1回】授業の進め方や授業を受けるにあたってのガイダンス、日本経済の課題</p> <p>【第2回】GDP統計からみた日本経済：GDP統計の概要、各主体別にみた経済活動</p> <p>【第3回】景気変動について：景気変動の要因、主な景気循環の特徴、景気判断</p> <p>【第4回】経済安定化のための政策：財政・金融政策の役割</p> <p>【第5回】経済成長のメカニズム</p> <p>【第6回】日本の戦後復興：漸進的国際化の下でのキャッチアップ型成長</p> <p>【第7回】バブル経済の生成と崩壊</p> <p>【第8回】失われた20年と物価問題</p> <p>【第9回】日本の産業構造：日本の産業構造の変化、産業構造転換のメカニズム</p> <p>【第10回】日本企業の特徴：日本企業の特徴とダイナミズム</p> <p>【第11回】企業活動のグローバル化：貿易投資</p> <p>【第12回】国際収支と為替レート：国際収支・為替レートの動向</p> <p>【第13回】総括：学習内容の振り返りと質疑応答</p> <p>【第14回】地球温暖化と経済①：地球温暖化とその影響、エネルギー消費の現状</p> <p>【第15回】地球温暖化と経済②：脱炭素化に向けた取組と経済への影響</p> <p>【第16回】経済のデジタル化</p> <p>【第17回】少子高齢化の現状と課題</p> <p>【第18回】日本の労働市場①：雇用動向、賃金動向、日本の雇用の特徴</p> <p>【第19回】日本の労働市場②：女性・高齢者の労働参加、働き方改革</p> <p>【第20回】社会保障の仕組み①：年金</p> <p>【第21回】社会保障の仕組み②：医療・介護</p> <p>【第22回】所得格差：所得格差の推移とその背景、課題</p> <p>【第23回】財政の所得再分配機能：社会保障給付、税制、持続可能性</p>

	<p>【第24回】金融の仕組みと家計の金融資産</p> <p>【第25回】人的資本投資：教育・訓練等の現状と課題</p> <p>【第26回】総括：学習内容の振り返りと質疑応答</p>
事前・事後学習に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学習の内容	<p>事前学習：事前に授業スライドおよび関連資料に目を通し、疑問点等を整理しておくこと。また、日ごろから、ニュースや新聞・雑誌等の経済記事に接し、経済の最近の動向を把握するよう努めること。</p> <p>事後学習：毎回の講義の内容については、参考文献等も活用しながら、各自でノートを作成するなど、整理を行うこと</p>
成績評価方法・基準	毎回の講義で出される課題への取組など平常点50%、前期・後期の各期末の課題提出50%で評価する。ただし、講義での課題等への取組がほとんどなされない場合には、期末課題の成績によらず、成績評価の対象とならない場合がある。
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題の講評・解説については授業内でおこなう。
教科書・指定図書	<p>教科書、指定図書は特に指定しないが、参考文献として、下記の図書を適宜参照されたい。</p> <p>大守隆編「日本経済読本第22版」東洋経済新報社、2021年、ISBN978-4-492-10037-0、2400円＋税</p> <p>小峰隆夫、村田啓子「最新日本経済入門第6版」日本評論社、2020年、ISBN978-4-535-55902-8、2500円＋税</p> <p>橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・齊藤直著「現代日本経済(第4版)」、有斐閣、2019年5月発行、ISBN978-4-641-22121-5、2800円＋税</p> <p>伊藤隆敏・星岳雄「日本経済論」東洋経済新報社、2023年3月、ISBN978-4-492-39674-2、4500円＋税</p> <p>内閣府「経済財政白書」各年版 <a href="https://www5.cao.go.jp/keizai3/whitepaper.html">https://www5.cao.go.jp/keizai3/whitepaper.html</a></p>
履修上の留意点	<p>授業スライドの閲覧や毎回の課題への取組等のためには、パソコンやタブレット端末などを用意することが望ましい</p> <p>この講義は、経済学の初学者でも履修可能なように構成されているが、講義の内容には、基礎的なマクロ経済学やミクロ経済学の考え方とその応用が含まれる。</p>
更新日	2024/3/19

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EC203
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	<a href="https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html">https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html</a>
講義コード	1ED000500
講義名	社会保障論
担当者名	権丈 英子
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	

科目の趣旨	公的年金・医療保険・介護保険等の社会保険制度、および生活保護・児童福祉などの福祉政策について、その概要を講義する。人口の高齢化にともない、社会保険制度は多くの注目を集めるようになった。公的年金は確実に支給されるのか？上昇していく高齢者の医療費をどのようにまかなっていったらいいのか？医療費の自己負担を上げることで、われわれのくらしにはどのような影響があるのか？この授業では、経済学の考え方をを使うとこのような問題についてどのように考えるのか、について学習する。
授業の内容	<p>社会保障の機能および日本の制度に関する概略を学んだのち、社会保障にとって重要な高齢化、少子化等の人口構造の変化やその要因について学ぶ。その後、社会保障を構成する様々な制度、すなわち、子育て支援(家族政策)、公的年金(制度や経済や雇用との関わり)、医療保障(医療保険や医療提供体制)、介護保障(介護保険等)、公的扶助(生活保護)、雇用対策(雇用保険や非正規雇用の問題への対応)、障害者福祉などについて、それぞれの制度の意義、現状、そして改革の論点を考察する。</p> <p>主に、日本の制度について講義していくが、折に触れて、類似の問題を抱える他の先進国の例を紹介して国際比較を行うことで、理解が深まるようにする。</p>
科目の到達目標(理解のレベル)	<p>①社会保障に関して経済学的視点でとらえることができる。</p> <p>②日本の人口構造の変化やその要因について説明することができる。</p> <p>③日本の社会保障の各制度(公的年金、医療保障、介護保障、公的扶助、雇用保険、社会福祉等)の意義と仕組みを説明することができる。</p> <p>④日本の社会保障に関する歴史的な経緯や国際比較から見た特徴を説明することができる。</p> <p>⑤日本の社会保障に関する課題を理解し、現在行われている議論について自分の考えを持つことができる。</p>
授業形態	講義
授業方法	講義形式で行う。responを活用するなどして、できるだけ受講生に意見を出してもらい、双方向型の要素を取り入れる。また、授業の最後にmanabaを通じて授業内容に関する小テスト(確認問題)を行う。
授業計画	<p>【第1回】社会保障とは？ この講義の進め方、社会保障とは？ 日本の社会保障の大きさ</p> <p>【第2回】人口構造の変化 人口の将来予測、人口高齢化の要因、戦後日本の出生率の動向</p> <p>【第3回】出生率と出産タイミング 出生率指標、結婚の変化、出生率と出産タイミング</p> <p>【第4回】少子化の経済分析 子供を持つことの費用と便益、少子化はなぜ起こるのか？</p> <p>【第5回】少子化への政策対応 日本の少子化対策の歴史、働く女性が増えると出生率は下がるのか？</p> <p>【第6回】日本と欧米の子育て支援策 福祉国家の3類型と子育て支援策(家族政策)</p> <p>【第7回】高齢者の生活保障 高齢者世帯の所得、公的年金の役割</p> <p>【第8回】公的年金制度の概要 保険の仕組みと社会保険、公的年金制度の概要</p> <p>【第9回】公的年金の歴史 公的年金制度の歴史、2004年年金改革</p> <p>【第10回】公的年金制度の改革 2019年財政検証、被用者保険の適用拡大</p> <p>【第11回】高齢期雇用と年金 女性と年金、Work Longerへの施策</p> <p>【第12回】日本の医療の特徴は？ 日本の医療を評価する、公的医療保険制度の仕組みと歴史</p> <p>【第13回】医療サービスの特性 医療サービスの特性と医療需要、社会サービスにおける公私の役割を考える</p> <p>【第14回】医療サービスの価格 医療サービス費用の支払い方式、診療報酬の仕組み</p> <p>【第15回】医療提供体制 日本の医療提供体制の特徴、現在行われている改革</p> <p>【第16回】医療制度の課題と医師の働き方 コロナ下の医療制度の課題と議論、医師の働き方改革</p> <p>【第17回】介護保険制度の成立 高齢者保健医療政策の流れと介護保険の成立</p> <p>【第18回】介護保険制度の現状と課題 介護保険制度の概要、介護保険の利用状況</p> <p>【第19回】日本の介護保障の課題 介護人材、認知症ケア</p> <p>【第20回】生活保護制度の概要 生活保護制度の概要、生活保護の利用状況</p> <p>【第21回】公的扶助のあり方と自立支援 公的扶助の給付のあり方とは？生活困窮者自立支援制度</p> <p>【第22回】雇用対策とフレキシキュリティ</p>

	<p>リーマンショックとコロナ下の非正規雇用、フレキシキュリティ(柔軟性と保障)</p> <p>【第23回】雇用保険制度の概要 雇用調整助成金、失業給付、求職者支援制度</p> <p>【第24回】障害者福祉の概要 日本の障害者数、障害者福祉に関する思想と歴史</p> <p>【第25回】障害者福祉改革と障害者雇用 最近の障害者福祉改革、障害者雇用</p> <p>【第26回】社会保障財政とまとめ 社会保障を財政面から考える、これまでのまとめ</p>
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	事前にmanabaを通じて資料を配布するので、授業前のある程度目を通しておくこと。授業終了後は、manabaの小テストや、配布資料に示している練習問題を活用し復習を行うこと。 社会保障は、新聞・雑誌等でも毎日のようによく取り上げられるテーマとなっている。そうした関連記事に関心を持って目を通すようにしてほしい。
成績評価方法・基準	定期試験(春学期、秋学期)50%と平常点50%とする。
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	<p>(指定図書)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・権文善一・権文英子『もっと気になる社会保障』勁草書房</li> <li>・権文善一『ちょっと気になる社会保障v3』勁草書房</li> <li>・権文善一『ちょっと気になる医療と介護(増補版)』勁草書房</li> <li>・権文英子『ちょっと気になる「働き方」の話』勁草書房</li> </ul> <p>(参考文献)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・厚生労働省『厚生労働白書』ぎょうせい</li> <li>・Nicholas Barr, Economics of the Welfare State, Oxford UP.</li> </ul>
履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. manabaを通じて資料配付や課題提出を行う。</li> <li>2. 1回目の授業前にmanabaを確認のこと。</li> </ol>
更新日	2024/3/19

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EC217
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	<a href="https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html">https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html</a>
講義コード	1ED000700
講義名	環境経済学
担当者名	信澤 由之
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E/L/I/C/U
備考	

科目の趣旨	環境問題を考察するアプローチにはいくつか種類はあるが、この科目では経済学の視点から環境問題について考察する。主に①地球環境問題がどうして発生したのか、②この問題を解決するためにはどのような考え方や方法があるのか、③環境負荷の少ない経済システムにするにはどのような方法があるのか、④私たちの生活はどうあるべきなのかなどについて焦点を当てる。この科目では、環境問題の現状の紹介、環境問題と密接に関係のある公共財や外部性の復習、様々な環境評価法についての紹介、環境政策における経済的手段と非経済的手段との比較、欧米の環境政策の制度と経験、資源問題、ゼロ・エミッションと企業の取り組み、持続可能な発展への課題、等が含まれる。
授業の内容	春学期は、環境破壊の現状と、環境破壊のメカニズムを把握した上で、地球環境問題と経済学の関係について、市場の失敗を中心に生活環境問題と、エネルギー問題、地球環境問題について取り上げ、環境問題をベースに外部不経済だけでなく、独占の問題や、外部経済、公共財、情報の非対称性に関する事例を用いて考える。また、環境政策として外部不経済の内部化、すなわち環境負荷軽減を目的とした政策手法の規制的手法と経済的手法を理論的に把握する。 秋学期には、廃棄物問題と資源問題、環境技術を普及策を把握した上で、経済学の視点から分析する。SDGsの観点から環境問題と貧困や福祉、教育、つくる責任とつかう責任についても取り上げる。授業を通じて、世代間問題と南北問題の視点から地球環境問題や公害問題、身近な環境問題を取り上げ、持続可能な開発実現に向けた取り組みについても考える。
科目の到達目標(理解のレベル)	春学期の到達目標は、履修者が、環境破壊のメカニズムを経済学的に理解し、市場の失敗と環境問題の関係について説明できるようにすることを目標とする。秋学期の到達目標は、SDGs及び環境問題に用いる政策手法を経済学的に理解し、廃棄物問題と資源問題、環境技術を普及策を把握した上で、持続可能な開発実現に向けた取り組みを考えられるようにしていく。環境経済学では、「環境意識」を持ち、地球環境問題や公害問題、身近な環境問題を通じて問題提起し、考える力を養うことを目指していく。
授業形態	講義
授業方法	毎回、パワーポイントの配布資料を用いて講義する。資料は、箇条書きのため講義の内容をメモし、文章にするようにしてください。また、環境問題に関する最新の情報を提供するため追加資料や、環境問題の理解度を高めるため映像資料を用いることもあります。配布資料は、manabaを用いて毎回公開する。講義には、必ず、配布資料を持参してください。質問は、メールで受け付けます。同一内容の質問が複数ある場合や、重要な内容は、次回講義で補足します。
授業計画	(春学期) 第1回 ガイダンス／環境破壊の現状－9つの地球環境問題とは何か、その問題がもたらす影響は何かを考える 第2回 環境破壊のメカニズム－環境はどのようにして破壊されるのか、公害や地球環境問題、生活環境問題について事例を用いて考える 第3回 環境に関する費用－環境問題を被害及び抑制と防止する費用についてミクロ経済学の理論を用いて考える 第4回 市場メカニズムと市場の失敗－市場は万能なのか、市場が失敗する場合、どのようなケースがあるのか、事例を用いて考える 第5回 市場の失敗と環境問題1－外部不経済と情報の非対称性から環境問題を考える 第6回 地球温暖化とエネルギー－資源－エネルギーと温暖化の関係と、自然エネルギーによる温暖化政策について考える 第7回 市場の失敗と環境問題2－再生可能エネルギー固定価格買取制度について独占の視点から制度上の問題を考える 第8回 日本の原子力政策－日本の原子力政策の経緯と、福島第一原発事故後、叫ばれるようになった「原発ゼロ」は実現可能か？それを可能にするための方法を考える 第9回 市場の失敗と環境問題3－地球公共財とグローバルコモンズについて、コモンズの悲劇から考える 第10回 放射性廃棄物の処分について－10年後の安全な処分方法とは何か、使用済み核燃料の処分について世代間問題から考える 第11回 外部不経済の理論的考察－環境問題をミクロ経済学の理論を用いて考える 第12回 環境汚染の責任と費用負担－環境汚染の費用は誰が負担するのか？汚染者負担原則を中心に考える 第13回 外部不経済の内部化のための方法－外部不経済を発生させないための規制的手法と経済的手法の理論的に考察する  (秋学期) 第14回 SGDsについて－持続可能な開発と17の目標とは何か？環境問題と関連する内容を取り上げ、実現可能性を考える 第15回 公害問題による健康被害－世界の水俣病問題と水俣条約で何が変わるのか、日本における水銀リサイクルの問題と水銀の処分について考える 第16回 コモンズの悲劇と資源問題－資源は、誰のものか？水及び生物を例に考える 第17回 廃棄物問題とその責任－ごみと環境問題、その責任は誰にあるのか、廃棄物政策の原則からかんがえる

	<p>第18回 家庭ごみ削減施策－家庭ごみ有料化と併用施策について、その効果を理論的に考える</p> <p>第19回 先進国における食品ロス問題－食品ロスは何が問題か？先進国と途上国の問題とは？食品系廃棄物と貧困問題の関係やフードバンクから環境と福祉の関係について考える</p> <p>第20回 廃プラスチックとマイクロプラスチック汚染問題－マイクロプラスチックによる汚染とは何か、プラスチック削減策としての容器包装リサイクル法とレジ袋有料化の効果について考える</p> <p>第21回 産業廃棄物削減策－先進的な企業のゼロエミッション対策と税を用いた産業廃棄物の流入を防ぐための自治体の取り組みとその効果について考える</p> <p>第22回 循環型社会とSDGs－ごみ減量、リサイクル活動における環境教育と障がい者福祉の観点から考える</p> <p>第23回 ヒートアイランド現象とその政策－都市の温暖化と都市の街づくり政策について経済的手法と自主的取り組みの事例から考える</p> <p>第24回 森林保全と森林環境税－日本の林業はなぜ衰退したのか、森林を守る方法として森林環境税など事例を用いて考える</p> <p>第25回 野生生物の減少と生物多様性保全－生物を守ること、生物多様性保全の意義について考える</p> <p>第26回 途上国における環境問題－貧困が、途上国の環境破壊をどのようにしてもたらしているのか？先進国との関係は何か？先進国ができることを考える</p> <p>※環境問題を扱うため授業計画は予定であり、変更することがあります。また、積極的に最新の情報や事例を取り入れていきます。</p>
事前・事後学習に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学習の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 配布資料の中で、理解できなかった用語等は調べて整理しておくこと</li> <li>② シラバスで取り上げている個々の環境問題について、どのような政策あるいは、対策を実施することが望ましいか、自分自身の考えをまとめておくこと</li> <li>③ 普段から新聞や雑誌などを読み、各自で最新の環境問題について調べる</li> <li>④ 配布資料・映像資料などの内容をベースに整理し、文章化し、その内容を理解し、説明できるようにしておくこと</li> <li>⑤ 配布資料の内容を、文章に整理すること</li> <li>⑥ 小テストの問題を配布資料から復習しておくこと</li> </ol> <p>大学設置基準では、1単位修得に必要な時間数は45時間と定められています。事前・事後学習は、「科目の到達目標(理解のレベル)」を達成するために、しっかりと取り組んでください。分からないことがある場合は、メールで問い合わせてください。</p>
成績評価方法・基準	<p>成績の評価方法は、春学期と秋学期に実施する期末試験(論述式)と小テストなど(論述式等)で、評価します。期末試験では、講義内容の理解度と、環境意識や問題提起とその解決のための考える力を評価します。小テストなどについては、事後学習で配布資料や映像資料を文章にしているかを把握し、その内容を理解しているかを評価していきます。</p> <p>成績の評価基準は、  春学期・秋学期の各期末試験＝70%  春学期・秋学期の各小テストなど＝30%  とします。</p>
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	<p>教科書: 使用しない。</p> <p>参考書: 質問があれば、その都度助言する。</p>
履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 関連する科目として、ミクロ経済学・公共経済学がある</li> <li>② 配布資料や映像資料の内容を整理し、文章にまとめる</li> <li>③ ②でまとめた文章を理解する</li> <li>④ 補足として、ミクロ経済学、公共経済学、環境経済学、環境問題、エネルギー問題、資源問題、廃棄物問題など授業に関連する本を読み、理解を深める</li> </ol>
更新日	2024/3/19

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EC205
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	<a href="https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html">https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html</a>
講義コード	1ED001100
講義名	公共経済学
担当者名	小寺 剛
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E/L/I/C/U
備考	

科目の趣旨	公共経済学では、市場メカニズムが資源配分に関して効率的に機能しない「市場の失敗」に対応して公共部門が行う外部不経済の内部化や公共財の最適供給、公共料金の決定、最適課税・公債の発行と償還などについて取り扱う。この科目では、「市場の失敗」に関わる代表的な問題をとり上げ、その発生要因と解決手段、政府の役割、政府支出の財源調達とそれに関わる政策、政府の失敗について学ぶ。
授業の内容	公共経済学は、公的部門(政府)が行う経済活動について考察する経済学の一分野である。政府の活動は多岐にわたるので、様々なトピックがその対象となる。この授業では、政府が税金や借金をすることでお金を集め、様々な経済活動を行うことの意義や各政策の役割についてミクロ経済学の分析手法に基づいて理解することを目的とする。また、経済・社会的な時事問題に関する知識の習得も重要な目標となる。
科目の到達目標(理解のレベル)	税金、財政問題、独占、外部性、公共財、年金などについて制度・減少に関する基礎的な知識とともに、経済学的な分析の方法、その結果について理解し、これらのテーマについて自分で考える力の基礎を身につけることを目標とする。
授業形態	講義
授業方法	この授業は原則、対面の講義形式(講義資料のスライドと板書を併用)で行う。ただし、予期せぬ事態が生じた場合はオンラインでの実施もありうる。講義資料の配布や練習問題の実施・提出はmanabaを通じて行う。
授業計画	<p>【第1回】イントロダクション 講義の進め方や公共経済学の概要、分析方法について解説する</p> <p>【第2回】ミクロ経済学の基礎(1): 効用と需要① 消費者の経済学的な位置づけ、基本的な概念について解説する</p> <p>【第3回】ミクロ経済学の基礎(2): 効用と需要② 消費者の効用最大化問題とその解としての需要の数学的導出について解説する</p> <p>【第4回】ミクロ経済学の基礎(3): 需要曲線と消費者余剰 需要関数と需要曲線の関係や消費者余剰について解説する</p> <p>【第5回】ミクロ経済学の基礎(4): 生産と供給 生産者の利潤最大化問題とその解としての供給について解説する</p> <p>【第6回】ミクロ経済学の基礎(5): 供給曲線と生産者余剰 供給関数と供給曲線の関係や生産者余剰について解説する</p> <p>【第7回】ミクロ経済学の基礎(6): 市場均衡と総余剰 完全競争市場の均衡や総余剰について解説する</p> <p>【第8回】ミクロ経済学の基礎(7): 市場均衡と政府の役割 これまでの議論にもとづいて政府が果たすべき役割について解説する</p> <p>【第9回】課税の理論(1): 税の歪み 課税が社会に与える影響について余剰分析に基づいて解説する</p> <p>【第10回】課税の理論(2): 租税回避と税の帰着 税の最終的負担者について解説する</p> <p>【第11回】課税の理論(3): 価格弾力性と最適課税論 価格弾力性の概念やあるべき税制について解説する</p> <p>【第12回】公債の理論(1): リカードの等価定理 公債発行に関するリカードの等価定理について解説する</p> <p>【第13回】公債の理論(2): 等価定理の妥当性 等価定理の前提を整理し、それらが満たされない状況について解説する</p> <p>【第14回】独占(1): 独占の弊害 独占市場の分析や独占の弊害について解説する</p> <p>【第15回】ミクロ経済学の基礎(7): ゲーム理論 戦略形ゲームやナッシュ均衡について解説する</p> <p>【第16回】独占(2): 寡占市場 寡占市場の代表的分析であるクールノーモデルについて解説する</p>

	<p>【第17回】独占(3):自然独占 独占の一形態である自然独占について解説する</p> <p>【第18回】外部性(1):外部性の影響 外部性の定義やその余剰分析について解説する</p> <p>【第19回】外部性(2):外部性への対策 外部性に対する税金・補助金の効果について解説する</p> <p>【第20回】公共財(1):定義と最適供給 公共財の性質やその最適供給条件について解説する</p> <p>【第21回】公共財(2):公共財供給のメカニズム 公共財の自発的供給の可能性や最適供給のためのメカニズムについて解説する</p> <p>【第22回】政策の政治的決定(1):多数決 多数決の様々なルールや関連する諸概念について解説する</p> <p>【第23回】政策の政治的決定(2):中位投票者定理 2大政党間の選挙の分析およびその結果としての中位投票者定理について解説する</p> <p>【第24回】政策の政治的決定(3):民主主義の効率性 民主主義による政策決定が効率的かどうかについて解説する</p> <p>【第25回】公的年金(1):目的と制度 社会保障の意義や日本の公的年金制度について解説する</p> <p>【第26回】公的年金(2):年金制度の分析 年金制度の経済学的な分析について解説する</p>
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	事前学修としてmanaba上の講義資料を読んでおくことが推奨される。また事後学修として、原則毎回の講義後にmanaba上で課される小テストを解き、しっかり復習することが望まれる。特に小テストは評価の30%を占めるので必ず毎回提出すること。
成績評価方法・基準	<p>毎回の課題(manaba上の小テスト):30%</p> <p>中間テスト:35%</p> <p>期末テスト:35%</p> <p>実施の詳細については授業中に指示する。</p>
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	教科書:特になし(講義資料を配布) 指定図書:講義中に適宜指示する
履修上の留意点	ミクロ経済学や経済学基礎数学を履修していることが望ましい。
更新日	2024/3/19

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EC215
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	<a href="https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html">https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html</a>
講義コード	1ED001600
講義名	日本産業論
担当者名	佐藤 信之
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E/L
備考	

科目の趣旨	前半では、産業分析の基本的な手法を解説しながら、我が国の産業構造に関する基礎的知識の習得を通じ、産業論の基本的フレームワークを検討する。その上で、戦後の産業政策の特徴とその果たした役割を、現状の産業問題と対比させながら考察する。後半では、我が国の産業の構造的特質に関し、IT化、グローバル化、ネットワーク化、空洞化、構造調整、規制緩和といった、代表的なキーワードの学修を通じ、我が国産業をそれぞれの視点から取り上げて、その特質と課題を包括的に把握することを目指す。
授業の内容	産業論という科目がどのような科目であるのかを理解してもらうために、まず最初に一般論について概説を行う。その理解の上で、日本の産業がどのように近代化・国際化していったのかを解説する。さらに、近代日本の産業化した産業分野について議論を展開する。授業は、一般論から初めて、続いて個別論へ講義を進めることで、日本産業の発展形態と今日抱えている課題について理解を深めてもらう。また、業界別の過去の経緯・現状・課題について考察し、それらの業界についての、個々の学生の研究のきっかけを提供する。
科目の到達目標 (理解のレベル)	学生は、産業論に関して理解した上で、現在の日本における各産業分野の特徴と問題点を理解すること。さらに、関心を持った産業分野について自分たちで個々に知識を深めていくことを期待する。 本科目は、就職活動において重要となる、志望業界に関する業界研究へのアプローチに対してヒントを与えることも目的とする。授業で紹介する業界に関する知識だけではなく資料を集め分析する、研究アプローチに関する手法についても学びとっていただきたい。
授業形態	講義
授業方法	講義形式 100分 質疑5分 本年度は教室での対面授業を基本とし、Zoomによるリモート授業とする場合は、事前に教室で公表する。 質問がある場合は、挙手したうえで発言すること。 連絡先 <a href="mailto:n_satoh@myad.jp">n_satoh@myad.jp</a>
授業計画	<p>【第1回】日本産業論という科目について 科目の概要を紹介し、どのように勉強を進めるべきかを説明する。 講義を実施する上での機材の調整を行う。</p> <p>【第2回】第1章 産業構造論 産業構造の変化 第2章 産業構造の高度化 産業構造論の一般的知識を概説する。</p> <p>【第3回】第3章 日本の産業構造 産業論の一般理論の知識を基にして日本の産業構造を説明する。</p> <p>【第4回】第4章 日本の産業組織 第5章 日本産業の特質—二重構造 産業論の視点を持って、日本における産業化のプロセスと特徴を解説する。</p> <p>【第5回】第6章 日本産業論の特質—系列ワンセット 日本の産業界を支配した系列ワンセットを解説する。</p> <p>【第6回】第7章 日本的経営 第8章 日本の特徴/日本企業の国際競争力 日本の産業活動における特徴について、日本的経営と国際競争力のキーワードから解説する。</p> <p>【第7回】第9章 業界研究 自動車産業</p> <p>【第8回】第10章 業界研究 電機産業—重電機</p> <p>【第9回】第10章 業界研究 電気産業—情報機器</p> <p>【第10回】業界研究 電気通信とテレコム改革</p> <p>【第11回】サービス業におけるイノベーションの視点について</p> <p>【第12回】第11章 業界研究 小売業の経営革新</p> <p>【第13回】第12章 業界研究 大規模小売業の再編</p> <p>【春学期課題】 業界研究小論文1 授業で解説した通りの構成で、各自が関心を持つ産業について、小論文をまとめること。</p> <p>【第14回】イントロダクション 日本の経済と産業の現状について</p> <p>【第15回】日本産業史 明治期/富国強兵政策</p> <p>【第16回】同 大正期/日本の産業化の完成</p> <p>【第17回】同 昭和前期/関東大震災から昭和恐慌</p>

	<p>【第18回】 同 昭和後期／高度経済成長</p> <p>【第19回】 業界研究 観光業 日本経済における観光の意義</p> <p>【第20回】 業界研究・電気通信業 テレコム改革</p> <p>【第21回】 業界研究・コンテンツ事業</p> <p>【第22回】 業界研究・出版事業</p> <p>【第23回】 同 電子書籍の現状</p> <p>【第24回】 業界研究 陸運</p> <p>【第25回】 業界研究 航空</p> <p>【第26回】 後期試験</p> <p>【秋学期課題】 業界研究 小論文2 課題1のレポートの内容について議論の展開方法などについて添削するので、その内容に従ってレポートを推敲する。</p>
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	授業で扱わない業界についても、自分の興味のある業界についてネットで検索するとともに、図書館で関連書籍に目を通して、その業界について理解を深めること。 1年を通じて、業界研究の小論文(課題)を作成してもらう。 普段から新聞、ネットニュースに目を通し、興味ある業界に対する情報の収集を習慣とすることが重要である。 またmanabaには朝日新聞の記事検索のリンクボタンがあるので、利用法など慣れておくことを推奨する。卒業して有料で利用しようとすると巨額なコストが必要になるので、学生の特権を最大限活用するようにして下さい。
成績評価方法・基準	平常点、小論文(課題)の評価、最終試験の得点により成績を付ける。 平常点は、レポート、履修態度などにより評価する。 平常点の比率は30%を目安とする。小論文(課題は、春学期末までに提出。秋学期末にも、ブラッシュアップしたものないし別の業界について新たに執筆したものを提出することができる。 評価の配分 平常点30% 試験・小論文70% 年間をととして一編の小論文を完成するという目標をして、一般社会でも通用する内容となっているかが評価の軸となる。
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	教科書は、オリジナルPDF教材を使用する。 春学期『日本産業論1』、秋学期『日本産業論2』 毎回manabaでPDF形式で配布する。
履修上の留意点	授業以外で質問など連絡をとりたい場合は、シラバスに記載されたメールアドレスまでメールを送信すること。
更新日	2024/3/19

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	ED203
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	<a href="https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html">https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html</a>
講義コード	1EE000300
講義名	アジア経済論 I
担当者名	布田 功治
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	

科目の趣旨	戦後から1960年代にかけて、多くの発展途上国の独立と経済成長の開始とともに 途上国の構造と開発にたいする分析観点を提供する正統派開発経済学が現れて貢献したが、1970年前後からは貧困の残存や民主化の遅れなどの諸問題が認識され、それに対応して改良主義的開発経済学が出現する。この科目では、このように時代と共に変化してきた開発経済学の理論を参照しながら、特にアジアの発展途上国の大戦後から現在までの経済発展の変動と現状を、広く政治・社会・文化などを視野に入れて、世界経済との関わりの中で分析する。
授業の内容	はじめに、アジア経済の目覚ましい発展の現状について、域内貿易と域内生産システムに注目して解説する。次に、現在のような発展状況に至るまでの過程を解説する。その際、アジア通貨金融危機までの成長メカニズム、危機の原因と影響、危機後の新たな成長メカニズムの順に解説する。なお、本講義では経済開発政策をめぐる論争や実例を積極的に紹介することで、いかにして発展を継続していくべきかについて、受講生が自分なりの見解を論理的に築くことを目指す。
科目の到達目標 (理解のレベル)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アジアの域内貿易や域内生産システムの現状を理解し、分かりやすく解説できることを目指す。</li> <li>2. アジア通貨金融危機までの成長メカニズムを理解し、論理的に解説できることを目指す。</li> <li>3. 危機の内外因論争を理解し、今後、成長を維持しながら危機を防止するための適切な政策を提言することを目指す。</li> <li>4. 危機後の成長メカニズムを理解し、論理的に解説できることを目指す。</li> </ol>
授業形態	講義
授業方法	講義形式、Respon(出席確認、毎回の講義課題や到達度チェックテスト課題の論述問題提出に使用)
授業計画	<p>[第1回]イントロダクション: アジア経済論 I の全体像、アジア諸国・地域の基本情報</p> <p>[第2回]アジア域内貿易投資のいま(1): Hub&amp;Spokes構造</p> <p>[第3回]アジア域内貿易投資のいま(2): 米中貿易摩擦、企業内貿易と域内FDI</p> <p>[第4回]アジア域内生産システムのいま: ICT製品および自動車の域内生産システム</p> <p>[第5回]アジア経済成長メカニズム(1): アジアの奇跡をめぐる解釈論争</p> <p>[第6回]アジア経済成長メカニズム(2): キャッチアップ型工業化モデル</p> <p>[第7回]アジア経済成長メカニズム(3): 貯蓄投資ギャップ、金融自由化にともなう急成長</p> <p>[第8回]第1回小テストと解説</p> <p>[第9回]アジア通貨金融危機(1): 金融自由化にともなうアジア通貨金融危機</p> <p>[第10回]アジア通貨金融危機(2): 危機後のIMF対応をめぐる内外因論争</p> <p>[第11回]アジア経済成長メカニズムの変容(1): 外資による地場企業買収</p> <p>[第12回]アジア経済成長メカニズムの変容(2): 中所得国の罅とその対策としてのデジタル化</p> <p>[第13回]第2回小テストと解説</p>
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	<p>事前学習: 各回の講義内容の講義資料をすべて事前にmanabaにアップロードするので、受講前に閲覧して理解できない箇所を発見してから講義に臨むこと。</p> <p>事後学習: 各回の講義内容の理解度を確認するための参考資料として到達度チェックテストを配布するので、すべて暗記するまで復習に励むこと。また、responでの毎回講義の他の学生の解答内容を閲覧可能にするので、それらを参考にしながら自らの論述解答をブラッシュアップさせること。</p>
成績評価方法・基準	平常点(毎回講義の課題への取り組み度)20%、第1回小テスト40%、第2回小テスト40%

課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	<p>教科書: 末廣昭『新興アジア経済論』岩波書店、2014年 (ISBN: 9784000287425)。また、各回講義でmanaba掲載の講義資料や到達度チェックテストを利用する。</p> <p>指定図書: アジア開発銀行『アジア開発史: 政策・市場・技術発展の50年を振り返る』勁草書房、2021年 (ISBN: 4326504846)。英語版は、ADBの下記URLから無料ダウンロード可能(<a href="https://www.adb.org/publications/asias-journey-to-prosperity">https://www.adb.org/publications/asias-journey-to-prosperity</a>)。</p>
履修上の留意点	本科目「アジア経済論Ⅰ」の後継科目が秋学期開講の「アジア経済論Ⅱ」であるため、履修登録の際には、「アジア経済論Ⅱ」の履修登録を勧めたい。
更新日	2024/3/19

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	ED204
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	<a href="https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html">https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html</a>
講義コード	1EE000400
講義名	アジア経済論Ⅱ
担当者名	布田 功治
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	

科目の趣旨	この科目は、社会科学としての地域開発経済論であり、その対象地域がアジアに適用する研究の方法論をとる。その上で開発経済学の展開の推移を、代表的な開発理論を中心に論じる。開発理論の展開にはNIE'S論や「下からの開発」といわれているHuman Needs論なども含める。個別の開発理論から進め、先進国の協力責任の問題を新国際経済論で論じ、その終焉とガット及びWTO体制下における政府開発援助論およびNGO論などを展開する。さらに第3世界の経済開発と人口・環境問題との関係性を明らかにする。
授業の内容	講義前半では、代表的な開発理論に沿う具体的な事例研究として、緑の革命、輸出指向型工業化、BHNアプローチ、援助論をとりあげる。講義後半では、現在のアジア経済が抱えるリスクや今後の経済成長可能性を解説する。本講義ではアジア諸国は一国のみでは対処しきれない複数の経済停滞リスクを抱えているとの立場から、アジア経済が持続的な成長を遂げるためにはいかなる域内協力が必要であるかについて、受講生が自分なりの見解を論理的に築くことを目指す。
科目の到達目標(理解のレベル)	1. 代表的な開発理論に沿う事例研究を理解し、分かりやすく解説できることを目指す。 2. アジア諸国に共通する経済成長停滞のリスク要因とその対処策を理解し、分かりやすく解説できることを目指す。 3. アジア諸国が現在、取り組んでいる域内協力の内容を理解し、今後のアジア経済の展望を論理的に見通すことを目指す。
授業形態	講義
授業方法	講義形式、Respon(出席確認、毎回講義や到達度チェックテスト課題の論述問題の解答提出に使用)
授業計画	【第1回】イントロダクション: アジア経済論Ⅱの全体像、経済開発の捉え方 【第2回】豊かさとは何か: アジアの社会経済指標の読み方と使い方、ペティー＝クラークの法則 【第3回】経済開発(1) 貧困の悪循環、緑の革命の意義 【第4回】経済開発(2): NIEs・ASEANの輸出指向工業化による経済発展 【第5回】経済開発の影: トリクルダウン効果の非有効性、格差の拡大、構造調整政策の悪影響 【第6回】経済開発の影への対策: 構造調整政策に対するBHNアプローチとその後の開発援助の展開 【第7回】第1回小テストおよび解説 【第8回】経済成長停滞のリスク要因(1): グローバル・インバランス問題、中国の貯蓄過剰問題 【第9回】経済成長停滞の最新のリスク回避策: 域内金融協力(ABMI, CMIM, AMRO)の進展 【第10回】最新の経済成長促進策(1): アジアの外貨準備蓄増諸国によるSWFと戦略的ODA、中国主導のAIIB 【第11回】経済成長停滞のリスク要因(2): 人口ボーナスの終焉、少子高齢化、社会保障制度の現状 【第12回】最新の経済成長促進策(2): WTOの限界を背景とする域内経済協力(TPP, AEC, RCEP)の進展 【第13回】第2回小テストおよび解説
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	事前学習: 各回の講義内容のパワーポイント資料を事前にアップロードするので、受講前に閲覧して理解できない箇所を発見してから講義に臨むこと。 事後学習: 各回の講義内容の理解度を確認するための参考資料として到達度チェックテストを配布するので、すべて暗記するまで復習に励むこと。また、受講後に家族や友人らに学習した講義内容を分かりやすく説明しつつ、講義中に示された論点について議論することを推奨する。
成績評価方法・基準	平常点20%、2回の小テストそれぞれ40%で評価する。 平常点は、毎回の課題の提出内容で評価する。

課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	<p>教科書は指定せず、教科書に相当する内容の講義資料を毎回配布する。また、各回講義の復習や試験対策に役立つように、到達度チェックテストを自習用教材として配布する。</p> <p>指定図書: アジア開発銀行『アジア開発史: 政策・市場・技術発展の50年を振り返る』勁草書房、2021年 (ISBN: 4326504846)。英語版は、ADBの下記URLから無料ダウンロード可能(<a href="https://www.adb.org/publications/asias-journey-to-prosperity">https://www.adb.org/publications/asias-journey-to-prosperity</a>)。</p> <p>参考文献については、テーマごとに文献リストを紹介する。</p>
履修上の留意点	前期にアジア経済論 I を履修しておくことが望ましい。
更新日	2024/3/19

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	ED202
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	<a href="https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html">https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html</a>
講義コード	1EE000600
講義名	欧米経済史
担当者名	須永 隆
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	

科目の趣旨	欧米諸国の経済発展に関して、工業化は産業革命以降に本格化したといわれるが、内側をよくみると、そこに至るまでに、前提となる条件が徐々に整えられていたことがわかる。ここではまず、近世の農村工業の叢生から産業革命に至るまでの経過を見つめ、次いで、産業革命以降の工業史に注目する。機械制工業の発達、技術革新や労働運動の展開、自由貿易主義や帝国主義、さらに経済恐慌などのテーマを通じて、資本主義システムの特徴を理解する。欧米諸国の工業化過程を全体的にたどることが、この講義の目的である。
授業の内容	経済史概論(ただし前提科目ではない)を履修した学生が一段と高い歴史意識をもてるように指導したい。歴史は暗記物と考えてきた人もいるだろうが、本当はそうではない。同時代に身を置いて考える習慣をつけることで、歴史の流れを理性的に見ることが可能となるだろう。オーソドックな内容でありながら、さまざまな視点から、歴史を学ぶ楽しさを示してみる。就職が厳しい時代、自分が置かれた時代を客観的に見つめなおすのに役立つだろう。欧米の歴史が植民地主義や帝国主義など海外膨張を伴うことは周知のことではあるが、この授業では単なる資本主義論ではなく、近代資本主義の生成・発展について特に扱うことにする。
科目の到達目標(理解のレベル)	この科目の到達目標は、学生が古代・中世・近世・近代、そして現代と、基本的な欧米経済史の流れを自分でわかるようにすることである。しっかり学べば、欧米で起きている現代の事象を自分で歴史的に判断できるようになるだろう。歴史知識を整理することで、どのような角度で歴史を見ていくか、理解することが可能となるであろう。
授業形態	講義
授業方法	前期・後期ともに授業は原則として対面方式とする。教室では対話を盛り込んで授業を展開する。パワーポイントの使用を基本とし、途中に映像、動画を織り込んでいくことになるだろう。毎回、丁寧に授業を進める。また、ときおり課題(レポート)が出され、提出(マナバを使用)が求められる。時間が許せば特定テーマについて意見交換をおこない、自主的な学びを促すことになる。
授業計画	<p>(前期)</p> <p>【第1回】  テーマ: 中世ヨーロッパにおける世界経済(1) 遠隔地商業と遍歴商人—奢侈品生産・奢侈品市場  内容: 商業の復活、商業圏、遠隔地商業</p> <p>【第2回】  テーマ: 中世ヨーロッパにおける世界経済(2) スペインとポルトガル  内容: 新航路の開拓</p> <p>【第3回】  テーマ: 中世ヨーロッパの農村的世界(1)  内容: 中世の土地制度と農民</p> <p>【第4回】  テーマ: 中世ヨーロッパの農村的世界(2) 農民の生活  内容: 伝統主義、慣習</p> <p>【第5回】  テーマ: 中世ヨーロッパの都市的世界(1) 理念と構造  内容: 中世都市の構造</p> <p>【第6回】  テーマ: 中世ヨーロッパの都市的世界(2) 同業組合の形成  内容: 中世都市と市民</p> <p>【第7回】  テーマ: イギリスにおける農村工業の展開(1) 独立自営農民の形成  内容: 農村工業、転換期としての15世紀</p> <p>【第8回】  テーマ: イギリスにおける農村工業の展開(2) 中産的生産者層の成長、市民社会の形成  内容: プロト工業化論</p> <p>【第9回】  テーマ: 国家の形成と重商主義 貿易差額主義、産業保護  内容: 重金主義 貿易差額</p>

	<p>【第10回】          テーマ:固有の重商主義の社会的背景—国民的産業の形成          内容:産業保護 固有の重商主義 イギリスとオランダ</p> <p>【第11回】          テーマ:投機としての資本主義—南海泡沫事件の歴史的意味          内容:経済的繁栄と富</p> <p>【第12回】          テーマ:農村工業の成長と地域市場の出現          内容:国民的産業としての毛織物工業の発展</p> <p>【第13回】          テーマ:イギリスの海外市場と植民地獲得          内容:北米植民地の支配</p> <p>(後期)</p> <p>【第14回】          テーマ:イギリス産業革命の歴史的意義(1)前提条件          内容:人口増大、植民地獲得、国内需要の増加など</p> <p>【第15回】          テーマ:イギリス産業革命の歴史的意義(2)経過と結果          内容:木綿工業と製鉄業を中心に</p> <p>【第16回】          テーマ:工業化の波及と後発国の経済発展(1)イギリス植民地としての北アメリカ          内容:南北アメリカの差異、北米の形成過程</p> <p>【第17回】          テーマ:工業化の波及と後発国の経済発展(2)財務長官ハミルトンの経済構想          内容:北米の経済政策、イギリス支配からの離脱</p> <p>【第18回】          テーマ:工業化の波及と後発国の経済発展(3)ドイツの事情          内容:ドイツ固有の事情、エルベ川・東西の差異</p> <p>【第19回】          テーマ:工業化の波及と後発国の経済発展(4)F.リストの国民経済理論          内容:関税同盟、鉄道政策、重工業化</p> <p>【第20回】          テーマ:世界経済の拡大と自由貿易体制の確立          内容:イギリス中心の世界経済</p> <p>【第21回】          テーマ:世界経済の拡大と帝国主義体制の摩擦          内容:1870年代からの長期不況、イギリス経済の相対的低下</p> <p>【第22回】          テーマ:1920年代のアメリカ経済—繁栄と投機的経済の萌芽          内容:空前の好景気を迎える北米</p> <p>【第23回】          テーマ:1930年代の世界経済(1)—ケインズ経済学形成の背景          内容:北米発の大恐慌</p> <p>【第24回】          テーマ:1930年代の世界経済(2)—ニューディール政策          内容:F・ローズベルトの経済政策</p> <p>【第25回】          テーマ:欧米資本主義と戦後の世界(1)アメリカ中心の世界          内容:戦前の教訓を生かした戦後の世界の構築</p> <p>【第26回】          テーマ:欧米資本主義と戦後の世界(2)多極化する経済、広がる格差、南北問題          内容:相対化する世界経済</p>
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	歴史の学びは教室以外の場、とくに図書館や自宅で、関連図書をじっくり読むことが大切である。この授業では、読むべき参考図書が指示され、ときおり課題(宿題)も課される。事前にmanabaでテーマを示すので、各自で取り組み、授業に臨むこと。参加者は、真面目な読書を実践して、与えられた課題(宿題)をレポートとして仕上げ、提出することが求められる。また基本図書をあげるの、自分からそうした本を手に取り、読むことも大事である。
成績評価方法・基準	レポート提出、前期・後期試験を総合して成績評価する。評価の目安は前期レポート10%、前期試験40%、後期レポート10%、後期試験40%程度とする。レポートについては特定のテーマについて知識を確認してもら。レポート提出の方法はmanabaを利用する。前期試験と後期試験は教室でおこなう予定である。前期内容、後期内容を区切りとして把握できるような試験を考えることになる。
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	教科書は指定しない。配布資料(担当者作成のテキスト)を中心に講義を進める。 (参考図書) 須永隆『プロテスタント亡命難民の経済史』昭和堂、2010年。

履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"><li>1 真面目かつ楽しい授業にしたいので、意欲のない安易な履修は避けてほしい。</li><li>2 毎回の課題提出を心掛けて欲しい。</li><li>3 レポート作成の際のインターネットからのコピー、他人レポートの「借用」は不正行為とみなす。</li></ol>
更新日	2024/3/19

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	ED205
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	<a href="https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html">https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html</a>
講義コード	1EE000700
講義名	経済学史
担当者名	八木 尚志
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	E/L
備考	

科目の趣旨	この科目は、経済学の歴史を講義する。経済学部学ぶ学生として、当然に知っておかなくてはならない経済学者を網羅的・関係的に概説する。新しい経済学は、忽然とそこに現れるわけではない。それ以前の経済学と同時代の経済学への批判と摂取が、新しい経済学が生まれる基礎作業であるといっても過言ではない。経済学の歴史を、欧米、日本の国・地域別にやさしく講義する。
授業の内容	この講義では、春学期には、重農主義の時代の経済学、重農主義者の経済学、古典派、歴史学派、マルクスの経済学、シュンペーター、歴史学派などについて講義を行います。また、後期には、限界革命以降の経済学の発展、ケインズやケインジアン、経済成長と分配の理論の発展、シカゴ学派の経済学、についての講義を行います。 経済学史は、その時代の経済理論あるいはもう少し広くその時代の経済認識についての歴史に関する講義です。経済学は前の時代あるいは世代の経済学を乗り越えて発展してきたものですが、同時に古い経済学説が新しい装いをもってよみがえってくるものがしばしばあります。
科目の到達目標 (理解のレベル)	経済学の理論の発展や変遷を理解し、各学説あるいは理論の特色について理解する。そして、様々な時代の経済学説に親しむことにより、現代の経済理論を勉強することだけでは得ることのできない経済に関する深く広い理解を得ることを目標とする。
授業形態	講義
授業方法	授業支援システム(manaba)を利用して、講義終了後に、小テストや課題提出を行っていただきます。毎回の課題については決められた期限までに必ず提出してください。 講義で取り上げる内容の範囲が広いので、事後学習にウェイトを置きます。対面での授業をZoomで録画したものをmanabaにアップロードする予定です(録画に失敗した場合にはアップロードできません)。事前学習、対面での授業、Zoomでの録画での復習を通じて理解を深めてください。視聴可能な期間は1週間程度です。対面での授業が基本で必ず出席を取ります。
授業計画	春学期 【第1回】 ガイダンス、経済学史を学ぶ意義 テーマ: 経済学の歴史の概説 事後学習としてZoomでの授業の録画と合わせて復習してください。 アンケート・小テスト: 授業内容に関するアンケート・小テスト、 提出先: manaba内の機能を使用して提出する。 【第2回】 テーマ: スミス以前のフランスにおける経済思想、重農学派の経済学 内容: 経済学史と現代、ボウギルベールと自由主義経済学、グルネとフォルボネ: 自由と保護の経済学、ケネーと重農主義: 自然主義の富観 事前学習としてpdfファイルを配布しますので、読んでください。 事後学習としてZoomでの授業の録画と合わせて復習してください。 アンケート・小テスト: 授業内容に関するアンケート・小テスト、 提出先: manaba内の機能を使用して提出する。 【第3回】 テーマ: 価値と価格 内容: 重農学派の価格論、ペティ、ロックの労働価値論、名目価格と実質価格 事前学習としてpdfファイルを配布しますので、読んでください。 事後学習としてZoomでの授業の録画と合わせて復習してください。 アンケート・小テスト: 授業内容に関するアンケート・小テスト、 提出先: manaba内の機能を使用して提出する。 【第4回】 テーマ: アダム・スミスの経済学 内容: スミスの価値論、分業と資本蓄積による経済発展、スミスの自然的自由の体制 事前学習としてpdfファイルを配布しますので、読んでください。 事後学習としてZoomでの授業の録画と合わせて復習してください。 アンケート・小テスト: 授業内容に関するアンケート・小テスト、 提出先: manaba内の機能を使用して提出する。 【第5回】 テーマ: リカードウと経済学 内容: リカードウの時代と生涯、リカードウ命題、価値論と分配論

事前学習としてpdfファイルを配布しますので、読んでください。  
事後学習としてZoomでの授業の録画と合わせて復習してください。

アンケート・小テスト: 授業内容に関するアンケート・小テスト、  
提出先: manaba内の機能を使用して提出する。

【第6回】 テーマ: マルサス『貧困と不況の経済学』、  
内容: マルサス『人口論』、マルサス『経済学原理』、古典派価値論

事前学習としてpdfファイルを配布しますので、読んでください。  
事後学習としてZoomでの授業の録画と合わせて復習してください。

アンケート・小テスト: 授業内容に関するアンケート・小テスト、  
提出先: manaba内の機能を使用して提出する。

【第7回】 テーマ: J.S.ミルの経済学  
内容: J.S.ミルの経済学と古典派経済学の崩壊

事前学習としてpdfファイルを配布しますので、読んでください。  
事後学習としてZoomでの授業の録画と合わせて復習してください。

アンケート・小テスト: 授業内容に関するアンケート・小テスト、  
提出先: manaba内の機能を使用して提出する。

【第8回】 テーマ: 古典派経済学とフランス  
内容: J.-B.セーの経済学、シスモンディの経済学、スミス経済学のフランス的継承

事前学習としてpdfファイルを配布しますので、読んでください。  
事後学習としてZoomでの授業の録画と合わせて復習してください。

アンケート・小テスト: 授業内容に関するアンケート・小テスト、  
提出先: manaba内の機能を使用して提出する。

【第9回】 テーマ: F.リストとドイツ歴史学派  
内容: F.リストの経済学、W.ロッセナーの経済学、B.ヒルデブラントの経済学、G.シュモラーの経済学

事前学習としてpdfファイルを配布しますので、読んでください。  
事後学習としてZoomでの授業の録画と合わせて復習してください。

アンケート・小テスト: 授業内容に関するアンケート・小テスト、  
提出先: manaba内の機能を使用して提出する。

【第10回】 テーマ: マルクスの生涯と哲学、マルクス『資本論』  
内容: マルクスの生涯、哲学から経済学へ、唯物史観の形成、商品、商品の価格と貨幣、貨幣の機能

事前学習としてpdfファイルを配布しますので、読んでください。  
事後学習としてZoomでの授業の録画と合わせて復習してください。

アンケート・小テスト: 授業内容に関するアンケート・小テスト、  
提出先: manaba内の機能を使用して提出する。

【第11回】 テーマ: マルクス『資本論』  
内容: 資本、資本主義的生産過程、マルクスの価値論、資本の流通過程、再生産表式、資本主義的生産の総過程、

事前学習としてpdfファイルを配布しますので、読んでください。  
事後学習としてZoomでの授業の録画と合わせて復習してください。

アンケート・小テスト: 授業内容に関するアンケート・小テスト、  
提出先: manaba内の機能を使用して提出する。

【第12回】 テーマ: シュンペーターの経済学  
内容: シュンペーターの生涯、シュンペーターの静態と動態、シュンペーターの経済発展の理論など

第13回 テーマ: アメリカの制度学派の経済学

事前学習としてpdfファイルを配布しますので、読んでください。  
事後学習としてZoomでの授業の録画と合わせて復習してください。

アンケート・小テスト: 授業内容に関するアンケート・小テスト、  
提出先: manaba内の機能を使用して提出する。

秋学期

【第14回】 限界革命、スタンレー・ジェボンズの経済学

事前学習として、八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第11章を読んでください。事後学習では、Zoomでの授業の録画と合わせて復習してください。

アンケート・小テスト: 授業内容に関するアンケート・小テスト、  
提出先: manaba内の機能を使用して提出する。

【第15回】 オーストリー学派の経済学: マンガー、ベーム・バヴェルクほか

事前学習として、八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第12章を読んでください。事後学習では、Zoomでの授業の録画と合わせて復習してください。

アンケート・小テスト: 授業内容に関するアンケート・小テスト、  
提出先: manaba内の機能を使用して提出する。

【第16回】 ケンブリッジ学派の経済学

事前学習として、八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第13章を読んでください。事後学習では、Zoomでの授業の録画と合わせて復習してください。

アンケート・小テスト: 授業内容に関するアンケート・小テスト、  
提出先: manaba内の機能を使用して提出する。

【第17回】 新古典派経済学の発展

	<p>事前学習として、八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第14章を読んでください。事後学習では、Zoomでの授業の録画と合わせて復習してください。</p> <p>アンケート・小テスト: 授業内容に関するアンケート・小テスト、 提出先: manaba内の機能を使用して提出する。</p> <p>【第18回】生産理論の発展</p> <p>事前学習として、八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第16章を読んでください。事後学習では、Zoomでの授業の録画と合わせて復習してください。</p> <p>アンケート・小テスト: 授業内容に関するアンケート・小テスト、 提出先: manaba内の機能を使用して提出する。</p> <p>【第19回】不完全競争理論</p> <p>事前学習として、八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第17章を読んでください。事後学習では、Zoomでの授業の録画と合わせて復習してください。</p> <p>アンケート・小テスト: 授業内容に関するアンケート・小テスト、 提出先: manaba内の機能を使用して提出する。</p> <p>【第20回】ケインズの経済学</p> <p>事前学習として、八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第20章を読んでください。事後学習では、Zoomでの授業の録画と合わせて復習してください。</p> <p>アンケート・小テスト: 授業内容に関するアンケート・小テスト、 提出先: manaba内の機能を使用して提出する。</p> <p>【第21回】ケインジアン経済学</p> <p>事前学習として、八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第21章を読んでください。事後学習では、Zoomでの授業の録画と合わせて復習してください。</p> <p>アンケート・小テスト: 授業内容に関するアンケート・小テスト、 提出先: manaba内の機能を使用して提出する。</p> <p>【第22回】シカゴ学派の経済学</p> <p>事前学習として、八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第22章、第23章を読んでください。事後学習では、Zoomでの授業の録画と合わせて復習してください。</p> <p>アンケート・小テスト: 授業内容に関するアンケート・小テスト、 提出先: manaba内の機能を使用して提出する。</p> <p>【第23回】ポスト・ケインジアン成長と分配の理論</p> <p>事前学習として、八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第23章を読んでください。事後学習では、Zoomでの授業の録画と合わせて復習してください。</p> <p>アンケート・小テスト: 授業内容に関するアンケート・小テスト、 提出先: manaba内の機能を使用して提出する。</p> <p>【第24回】新古典派の経済成長論、景気循環論</p> <p>事前学習として、八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第24章、第25章を読んでください。事後学習では、Zoomでの授業の録画と合わせて復習してください。</p> <p>アンケート・小テスト: 授業内容に関するアンケート・小テスト、 提出先: manaba内の機能を使用して提出する。</p> <p>【第25回】世界システムに関する学説</p> <p>事前学習として、八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第30章を読んでください。事後学習では、Zoomでの授業の録画と合わせて復習してください。</p> <p>アンケート・小テスト: 授業内容に関するアンケート・小テスト、 提出先: manaba内の機能を使用して提出する。</p> <p>【第26回】日本の経済学</p> <p>事前学習として、八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第30章を読んでください。事後学習では、Zoomでの授業の録画と合わせて復習してください。</p> <p>アンケート・小テスト: 授業内容に関するアンケート・小テスト、 提出先: manaba内の機能を使用して提出する。</p>
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	<p>1) 事前学習 指定されたテキストおよび配布資料を読み関連した文献を調べてください。</p> <p>2) 事後学習 ・毎回の授業で小テストまたはアンケートによる授業の理解の確認を行います。 ・長期休暇の間にレポート課題を出します。 ・Zoomで授業を録画し、授業録画の視聴ができるようにする予定です。 録画の視聴可能期間は1週間程度。</p>
成績評価方法・基準	<p>1) 授業後の小テスト・アンケート: 40% 毎回の授業でManabaを利用してアンケート形式で授業の理解度を確かめます。</p> <p>2) レポート課題: 春学期レポート15%、秋学期レポート15%</p> <p>3) 学年末試験: 春学期試験15%、秋学期試験15%</p>

<p>課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法</p>	<p>本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。</p>
<p>教科書・指定図書</p>	<p>(教科書)        八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房、2024年8月刊予定        (春学期には本書は利用できないので、春学期の授業では資料を配布します)</p> <p>(指定図書)        ハイムブローナー『入門経済思想史 世俗の思想家たち』ちくま学芸文庫</p>
<p>履修上の留意点</p>	<p>必ず出席をしてください。</p>
<p>更新日</p>	<p>2024/3/19</p>

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	ED207
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	<a href="https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html">https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html</a>
講義コード	1EE000801
講義名	各国経済論(アジア)[韓国]
担当者名	奥田 聡
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C/U
備考	実務経験のある教員による授業科目である。

科目の趣旨	近年著しく成長を遂げるアジア諸国の経済は、資源の賦存状況、地理的条件、歴史的経路に依存し多様であり、各国固有の問題が存在する。この科目は、既に経済理論を学修した学生が応用科目として、アジア各国の産業構造、貿易構造、経済政策等を実証的に学ぶことを趣旨とする科目である。
授業の内容	<p>これまでの韓国経済の急速な経済発展の様子を回顧し、現存も輸出主導型の成長構造を維持する経済の現状と課題を概観する。輸出を梃子とした経済発展が採用された背景、アジア通貨危機の苦い経験をもたらした要因、リーマンショック後の成長鈍化と輸出主導型経済の限界、FTAの進展、コロナ禍の影響、そして現在の韓国経済が直面する主要課題を扱うことにする。</p> <p>毎回の授業で生じた疑問・質問を積極的に出してもらいたい。これらに対しては翌週授業の冒頭で答えることにより、受講者の学びをより豊かなものにしていきたい。</p>
科目の到達目標(理解のレベル)	韓国経済が内戦の灰燼から立ち上がり、世界を驚かす急速な経済発展を遂げた道筋を跡付け、経済発展の根幹的要素であった輸出主導政策の進展を助けた要因を理解する。また、FTAをはじめとする対外経済政策、現政権の経済政策の方向を理解する。
授業形態	講義
授業方法	<p>教員作成の資料を基に講義を行う。Wordで作成したレジュメを基本とするが、その内容を分かりやすく再構成し、画像データなども配置したパワーポイントシートも適宜用いる。</p> <p>受講者の理解を深めるため、教科書出版後の事象についても適宜補足しながら授業を進める。</p> <p>毎回の講義資料は、所定の講義開始時間までにmanaba にアップする。受講者の理解度測定と質疑のためResponによる応答(気づき、疑問、質問など)の提出を求める。出された疑問・質問に対しては翌週授業の冒頭で回答していきたい。</p> <p>講義に関する問い合わせは下記アドレスへのメールによること。 <a href="mailto:okuda@asia-u.ac.jp">okuda@asia-u.ac.jp</a></p>
授業計画	<p>【第1回】オリエンテーション(講義概略の紹介、受講者の意向聴取等)</p> <p>【第2回】解放後の韓国経済(日本の敗戦、朝鮮戦争後の荒廃、李承晩政権下での原始的工業発展)</p> <p>【第3回】朴正熙政権下での経済発展(「先成長・後分配」による成長推進、開発独裁、輸出主導成長、重化学工業化と経済政策の変質)</p> <p>【第4回】全斗煥政権の経済運営と民主化後の変化(1980年不況後の経済健全化策、民主化と労働運動、自由化・国際化、過剰投資)</p> <p>【第5回】アジア通貨危機とその後(原因、経過、IMF体制、応急措置の奏効、急速な回復、その後の歩み)</p> <p>【第6回】リーマン後の低成長(リーマンショック後の低成長、李明博・朴槿恵・文在寅政権の経済政策)</p> <p>【第7回】コロナ禍とその後(コロナ禍の経済面での影響、尹錫悦政権の経済政策)、中間レポート出題</p> <p>【第8回】輸出頼みの成長構造(アジア通貨危機後の経済成長における輸出の重要性、内需の不振、庶民生活の苦境など)</p> <p>【第9回】輸出入の構造(スマホ、半導体、自動車、船舶などの主力輸出商品、資源・エネルギーおよび部品・素材の輸入、主要国・地域別貿易動向、対日輸入の実態)</p> <p>【第10回】積極的なFTA戦略(経済領土の拡大、第三国への影響、最近のFTA政策の方向)</p> <p>【第11回】今後に向けての問題点と展望①(チャイナファクター、日韓・米韓・南北関係)</p> <p>【第12回】今後に向けての問題点と展望②(未来産業戦略、経済安全保障など)、期末レポート出題</p> <p>【第13回】期末レポートに関する執筆相談、前期授業内容についての質疑応答</p>
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	<p>授業中に得た知識を定着させるため、事後学習に重きを置くことよ。</p> <p>授業前には、授業項目に関してネット検索などによって予備的な知識を得ておく。</p> <p>授業後は授業で配布されたレジュメやキーワードリストの記載内容をよく読み返す。不明点については授業終了時のレスポンスに記入するか、書籍あるいはネット検索などで調べる。それでも不明であればメールまたは次回授業での質問を試みる。</p>
成績評価方法・基準	<p>評定の内訳は中間レポート30%、期末レポート40%、毎回授業のレスポンス30%を基本とする。本学学生の外国語運用能力の向上を支援するため、母国語以外の言語によって執筆した場合には加点を考慮する。対応可能な言語については開講後に指示を出す。レポート出題と提出はmanabaにて行う。</p>

<p>課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法</p>	<p>本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。</p>
<p>教科書・指定図書</p>	<p>教員作成の講義資料を配布(manabaに所定授業開始時間までにアップするので各自取得すること)</p>
<p>履修上の留意点</p>	<p>講義方針を徹底するため、第一回の講義資料は必ず取得し、講義の目的、方法、計画等をよく理解しておくこと。授業は韓国に特化した内容であって下調べがかなり必要となる。厳しい授業なので、心して臨むこと。やむを得ず講義に参加できないときはあらかじめ連絡されたい。無断でのコメント未入力・欠席は4回を限度とする。</p>
<p>更新日</p>	<p>2024/3/19</p>

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	ED207
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	<a href="https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html">https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html</a>
講義コード	1EE000811
講義名	各国経済論(アジア)[太平洋圏]
担当者名	奥田 聡
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C/U
備考	実務経験のある教員による授業科目である。

科目の趣旨	近年著しく成長を遂げるアジア諸国の経済は、資源の賦存状況、地理的条件、歴史的経路に依存し多様であり、各国固有の問題が存在する。この科目は、既に経済理論を学修した学生が応用科目として、アジア各国の産業構造、貿易構造、経済政策等を実証的に学ぶことを趣旨とする科目である。
授業の内容	この講義では日本をはじめ世界の多くの国々が影響を受ける米中対立を扱う。その中でも特に通貨に焦点を当てて概観することにする。 米中対立の焦点が貿易から通貨へ移ったことを押さえたうえで、コロナ、香港掌握、ウクライナ戦争の影響見て、人民元の国際化、デジタル化の様子を概観する。そのうえで、中国側の問題点、技術競争の側面、日本への影響などを見ていくことにする。 毎回の授業で生じた疑問・質問を積極的に出してもらいたい。これらに対しては翌週授業の冒頭で答えることにより、受講者の学びをより豊かなものにしていきたい。
科目の到達目標(理解のレベル)	米中対立の経済的側面を把握・理解し、特に通貨・決済の側面での影響を理解する。また、コロナやウクライナ戦争、技術競争など最近の事象が米中対立にどのように影響しているのかも理解する。 また、中国の直面する今日的課題や、中国の台頭に対して日本がどのように対処すべきかについても考えていく。
授業形態	講義
授業方法	教科書をもとに教員が作成した講義資料を基に講義を行う。キーワードとその解説をまとめたExcelシートを配布する。画像などを盛り込んだパワーポイントによる講義資料を用いる場合もある。 毎回の講義資料は、所定の講義開始時間までにmanaba にアップする。受講者の理解度測定と質疑のためResponによる応答(気づき、疑問、質問など)の提出を求める。出された疑問・質問に対しては翌週授業の冒頭で回答していきたい。 受講者の理解を深めるため、教科書出版後の事象についても適宜補足しながら授業を進める。 講義に関する問い合わせは下記アドレスへのメールによること。 <a href="mailto:okuda@asia-u.ac.jp">okuda@asia-u.ac.jp</a>
授業計画	【第1回】米中通貨戦争の勃発 【第2回】貿易戦争から通貨戦争へ 【第3回】コロナと米中対立 【第4回】中国による香港掌握と金融覇権 【第5回】ウクライナ戦争と人民元 【第6回】デジタル人民元の現状 【第7回】前半期の内容補足、第1回小テスト 【第8回】中国の高度成長の終焉 【第9回】3期目を迎えた習政権の悩み 【第10回】米中ハイテク戦争 【第11回】チャイナマネーと日本 【第12回】人民元国際化への日本の対応策 【第13回】後半期の内容補足、第2回小テスト
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	授業前には、教科書の該当部分をよく読みこんでおくこと。この際、よくわからない用語等はネットなどである程度調べを付けておくように。 授業後は授業で配布されたキーワードリストの記載内容をよく読み返すとともに、教科書の該当部分と対照する。ここでもよくわからなかった用語等はネット等で調べる。どうしてもわからない時はRespon入力時に質問する、あるいは次回授業の際に質問するなどを通じて解決すること。
成績評価方法・基準	評定は第1回小テスト、第2回小テスト、毎回授業へのリスポンスの提出により行い、それぞれのウエートは基本的には1/3ずつとする。本学学生の外国語運用能力の向上をサポートするため、母国語以外の外国語で解答・応答した場合には加点を考慮する。 また、授業に関連する内容のレポートを自主的に執筆し、提出した場合にも加点を考慮する。

課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	manabaで出された質問については次回授業で回答する。第1回小テストは採点の上返却し、その際に解説を行う。
教科書・指定図書	教科書1: 田村秀男『米中通貨戦争——「ドル覇権国」が勝つのか、「モノ供給大国」が勝つのか』2023年7月。 ISBN 978-4594093914
履修上の留意点	<p>講義方針を徹底するため、第一回の講義資料は必ず出席し、講義の目的、方法、計画等をよく理解しておくこと。</p> <p>毎回の授業では、レスポンスを必ず提出すること。レスポンス提出がないと評定上不利となる。やむを得ず講義を受けられない場合は事前に教員宛にメールで連絡すること。厳しい授業なので、心して取り組むこと。無断での欠席・レスポンス未入力4回を限度とする。</p>
更新日	2024/3/19

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	ED207
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	<a href="https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html">https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html</a>
講義コード	1EE000821
講義名	各国経済論(アジア)[中国]
担当者名	遊川 和郎
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C/U
備考	実務経験のある教員による授業科目である。

科目の趣旨	近年著しく成長を遂げるアジア諸国の経済は、資源の賦存状況、地理的条件、歴史的経路に依存し多様であり、各国固有の問題が存在する。この科目は、既に経済理論を学修した学生が応用科目として、アジア各国の産業構造、貿易構造、経済政策等を実証的に学ぶことを趣旨とする科目である。
授業の内容	中国に対する基本的な知識を習得するとともに、より高い次元で考えることができるよう、建国以来の政策を振り返りながら、経済発展の要因や課題について詳しく学習していきます。 中国共産党、中華民国、国民党、政権の正統性、台湾問題、大躍進政策、走資派、人民公社、文化大革命、中ソ関係、米中関係、関与政策、日中関係、党大会、三中全会、改革開放、計画経済と市場経済、四つの近代化、農業生産責任制、外資導入、外資誘致、政府開発援助、経済特区、税制優遇、市場経済化、国有企業改革、セーフティネット、民営企業、ブラザ合意、WTO加盟、国家資本主義、経済格差、一帯一路、AIB、共同富裕、インバウンド、人口政策等がキーワードです。
科目の到達目標(理解のレベル)	授業を通して、現代中国を分析する基本的な視座を涵養するとともに、日本や世界との関係で中国を捉え、広く社会や経済事象に対する考え方を身につけることを目標とします。 これに関連して基本的な経済用語や定義などについて、正確な知識と理解が必要です。また「知らない」から「わからない」ではなく、知らなくても解を導き出す習慣も身に付けましょう。進行中の諸問題から問題の本質を発見し、解決能力を養います。
授業形態	講義
授業方法	教員からの講義、問いかけに対して、受講者がそれぞれ自分の頭で考えることを中心に授業を進めます。講義は視聴覚(ビデオ)教材を利用し、議論の共通の土台を作ります。授業に集中し、積極的に発言してください。 manabaで授業各回のレジュメや資料を共有する他、manabaの小テスト機能を利用した基礎知識の定着を図り、manabaレポート機能を利用してレポートの提出を求めます。
授業計画	【第1回】オリエンテーション、国の成り立ちを考える ①建国以前の中国と中国共産党 【第2回】国の成り立ちを考える ②建国の理想と現実。政権の正統性、民主主義と権威主義、台湾 【第3回】混迷する社会主義建設 ①人民公社化と大躍進。私有財産の否定、奇妙な発展戦略 【第4回】混迷する社会主義建設 ②経済政策をめぐる対立。大躍進の失敗と走資派の台頭、劉少奇 【第5回】混迷する社会主義建設 ③文化大革命。「農業は大寨に学べ」、四人組、紅衛兵 【第6回】混迷する社会主義建設 ④中ソ対立と米中関係。キッシンジャー国務長官、ニクソン訪中、関与政策 【第7回】混迷する社会主義建設 ⑤毛沢東の晩年と四人組、鄧小平。周恩来、四つの近代化、天安門事件、文化大革命の終焉 【第8回】改革開放政策 ①農村からのスタート。農業生産責任制(請負制)、万元戸、先富論 【第9回】改革開放政策 ②対外開放政策と外資の導入。インフラ整備、政府開発援助(ODA)、経済特区 【第10回】改革開放政策 ③市場経済化の苦難。国有企業改革、単位、セーフティネット、民営企業 【第11回】改革開放政策 ④WTO加盟、国際通商ルールへの参画、経済圏構想 【第12回】日中関係 ①国交正常化、戦後賠償、日中平和友好条約と円借款、台湾問題 【第13回】日中関係 ②日本企業の中国進出、インバウンド
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	毎回の授業後、履修内容や感想、質問などを記した受講レポート(500字以上)提出を義務付けます(詳細は授業時に説明)。授業で履修した内容をきちんと整理し、確認しながら進んでください。授業時に指定された図書をよく読んでさらに理解を深めてください。 また、manabaを利用して学期中2回の小テストを予定しています。小テストを通じて履修内容の復習、知識の定着を図ってください。いずれも詳細は授業時に説明します。

成績評価方法・基準	<p>それぞれ以下の要素で評価し、合算します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点(毎回授業後に、受講レポートを提出)35%</li> <li>・課題(小テスト、学期中2回を予定)35%</li> <li>・最終試験30%</li> </ul> <p>毎回の授業にきちんと参加し、期限通りに課題を提出することが必須となります。特に、毎回の受講レポート提出を通して記述能力の向上を図ってください。課題(小テスト)では、学んだ知識が定着していることを確認します。知識の積み上げを実感してください。詳細は授業時に説明します。</p>
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	<p>本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこないます。</p>
教科書・指定図書	<p>教科書は使用しませんが、関連する図書を授業時に紹介します。</p>
履修上の留意点	<p>(1)「楽に単位を取りたい」という人には不向きな授業です。しかし、真剣に取り組む人には高い知的満足感が得られるよう努力します。</p> <p>(2)授業に集中してください。またその環境作りにご協力をお願いします。</p> <p>(3)重要事項を説明しますので、必ず初回授業に出席してください。</p>
更新日	<p>2024/3/19</p>

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	ED209
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	<a href="https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html">https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html</a>
講義コード	1EE001100
講義名	経済思想論
担当者名	八木 尚志
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C
備考	

科目の趣旨	この科目は経済学の思想的な基礎や基盤を概観するものである。近代資本主義の出現から現代資本主義の形成に至る過程で、主要な経済学者や経済学派がその時代の経済現象をどのように捉えていたかを思想的に解説することを目標としている。
授業の内容	本科目の趣旨を踏まえて、この講義では、経済システムを第1に「自由と市場経済」、第2に「資本主義と企業」という2つの見方を軸として講義を組み立てます。講義の前半7回を「自由と市場経済」をめぐる経済学者の思想について取り上げ、後半7回を経済システムを「資本主義」及び「企業」に着目して講義を行う予定です。 経済思想という分野は、経済政策の考え方や福祉の考え方など、問題を細かくすれば非常に多くの思想が存在するでしょう。しかし、この講義では、経済という大きなシステムを考える場合に重要になる自由主義、市場経済、あるいは資本主義としてみた場合の経済思想について講義することにします。これによって、経済という大きなシステムとを理解しようとする場合の基本的な視角や考え方の基礎が、経済学者によってどのように論じられてきたのかということを講義していく予定です。
科目の到達目標(理解のレベル)	現在の主流的な経済学は、自由な競争とそれがもたらす秩序に目を向ける市場経済の枠組みでの分析用具を発達させてきました。この講義では、自由主義に関する経済思想と、「市場経済」と対比するとらえ方として「資本主義」や「企業」といった見方に着目することによって講義をすることにより、経済理論の背景にある経済思想について理解を深め、経済というシステムを見るときの複眼的な思考を持つことができることを目標とします。
授業形態	講義
授業方法	授業は講義形式です。授業支援システム(manaba)を利用する。毎回の授業で指定された教科書類を読んだのち、講義終了後に、小テストや課題提出を行っていただきます。毎回の課題については決められた期限までに必ず提出してください。授業支援システム(manaba)を使用して小テストへの解答や課題提出を行うこと。
授業計画	<p>「自由と市場経済」</p> <p>【第1回】 ガイダンス、スミス以前のイギリスにおける経済思想 内容： 経済思想論を学ぶ意義、イギリスの重商主義の市場経済の理解 事前学習として八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の序章および第1章を読んでください。 授業後にアンケート・小テスト：授業内容に関する簡単なアンケート・小テストを実施します。提出先：manaba内の機能を使用して提出する。</p> <p>【第2回】 スミス以前のフランスにおける経済思想 内容： フランスの重商主義、フランソワ・ケネーと重農学派の経済思想 事前学習として八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第2章を読んでください。 授業後にアンケート・小テスト：授業内容に関する簡単なアンケート・小テストを実施します。提出先：manaba内の機能を使用して提出する。</p> <p>【第3回】 アダムスミスとデビッド・ヒュームの経済思想 内容： アダム・スミスの自然的自由の体系、道徳感情論の内容 事前学習として八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第3章を読んでください。 授業後にアンケート・小テスト：授業内容に関する簡単なアンケート・小テストを実施します。提出先：manaba内の機能を使用して提出する。</p> <p>【第4回】 アダム・スミスとジェレミー・ベンサムと功利主義 内容： アダム・スミスの自然的自由の体制とジェレミー・ベンサムの功利主義。 事前学習として八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第4章を読んでください。 授業後にアンケート・小テスト：授業内容に関する簡単なアンケート・小テストを実施します。提出先：manaba内の機能を使用して提出する。</p> <p>【第5回】 J.S.ミルにおける自由及び社会主義 内容： J.S.ミルの経済思想。 事前学習として八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第7章を読んでください。 授業後にアンケート・小テスト：授業内容に関する簡単なアンケート・小テストを実施します。提出先：manaba内の機能を使用して提出する。</p> <p>【第6回】 ワルラスとマーシャルの経済思想 内容： ワルラスとマーシャルの経済思想 事前学習として八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第11章のワルラスの部分と第13章のマーシャルの部分を読んでください。 授業後にアンケート・小テスト：授業内容に関する簡単なアンケート・小テストを実施します。提出先：manaba内の機能を使用して提出する。</p>

	<p>【第7回】ハイエクとフリードマンの経済思想  内容：ハイエクの自由主義、フリードマンの経済思想</p> <p>事前学習として八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第22章のフリードマンとハイエクに関する部分を読んでください。  アンケート・小テスト：授業内容に関する簡単なアンケート・小テスト  提出先：manaba内の機能を使用して提出する。</p> <p>「資本主義と企業」</p> <p>【第8回】マルサスとリカードの経済思想  内容：マルサスとリカードの経済思想</p> <p>事前学習として八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第5章を読んでください。  アンケート・小テスト：授業内容に関する簡単なアンケート・小テスト  提出先：manaba内の機能を使用して提出する。</p> <p>【第9回】K.マルクスの経済思想  内容：K.マルクスの経済思想、歴史認識、資本主義批判  事前学習として八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第10章を読んでください。  アンケート・小テスト：授業内容に関する簡単なアンケート・小テスト  提出先：manaba内の機能を使用して提出する。</p> <p>【第10回】J.Mケインズの市場経済批判と新しい分析枠組み  内容：ケインズの経済思想、ケインジアン経済思想  事前学習として八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第20章を読んでください。  アンケート・小テスト：授業内容に関する簡単なアンケート・小テスト  提出先：manaba内の機能を使用して提出する。</p> <p>【第11回】ドイツの歴史学派の経済学  内容：F.リスト、G.シュモラー、ゾンバルト、シュンペーターの経済思想</p> <p>事前学習として八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第9章および第28章を読んでください。  アンケート・小テスト：授業内容に関する簡単なアンケート・小テスト  提出先：manaba内の機能を使用して提出する。</p> <p>冬休みレポート：授業内容で取り上げた経済学者について、1人を取り上げレポートを書いてください。  提出期限：冬休み明けの最初の授業日  提出先：manaba内の機能を使用して提出する。</p> <p>【第12回】アメリカの制度学派の経済思想  内容：ソースタイン・ヴェブレン、J.K.ガルブレイス、コモズの経済思想</p> <p>事前学習として八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第29章を読んでください。  アンケート・小テスト：授業内容に関する簡単なアンケート・小テスト  提出先：manaba内の機能を使用して提出する。</p> <p>【第13回】世界システムをとらえる経済思想  内容：プレビッシュの経済思想、帝国主義論、従属理論、クルーグマンの中核一周辺論。</p> <p>事前学習として八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房の第30章を読んでください。  アンケート・小テスト：授業内容に関する簡単なアンケート・小テスト  提出先：manaba内の機能を使用して提出する。</p>
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	<p>テキストを指定しました。授業の範囲を事前に読んでください。</p> <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義内容に関連したアンケート・小テスト(レポート)を行います。</li> <li>・長期休暇を利用して、レポートを書いていただきます。</li> </ul>
成績評価方法・基準	<p>1) 出席(毎回とります)。授業に関する小テストまたは授業後の授業に関する短いレポートを提出していただく形で理解度を確認し、成績評価に組み入れます。成績評価では50%。</p> <p>2) レポート・・・冬季休暇中にレポートを書いていただきます。レポートの形式等は授業中に指示します。成績評価では30%。</p> <p>3) 期末テストを行います。成績評価ではウェイトを低めに設定します。20%</p>
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	<p>(教科書)  八木尚志編『経済学史入門』ミネルヴァ書房、8月に発行予定</p> <p>(指定図書)  ハイルブローナー『入門経済思想史 世俗の思想家たち』(ちくま学芸文庫)</p>
履修上の留意点	出席をして授業を通じて理解を深めてください。
更新日	2024/3/19

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	ED216
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	<a href="https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html">https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html</a>
講義コード	1EG000700
講義名	経済史文献講読Ⅱ
担当者名	水野 明日香
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	E
備考	実務経験のある教員による授業科目である。

科目の趣旨	本科目は、経済史文献講読Ⅰでの修学との継続性をもたせながら、経済史の視点から書かれた文献や論文を当時の社会との関連において、事例研究なども含めて、よりひろく深く具体的な学修を目標に据える。ここでは経済史における実証研究の必要性に重点をおいている。
授業の内容	本年度は、2023年に翻訳が発売され話題となっている『「経済成長」の起源』を取り上げる。本書の内容は、世界はどのようにして豊かになったのか？ いまだ貧困が世界中に存在するとはいえ、歴史的に見た場合、いま生きている人の大半は200年前に生きていたどんな人間よりも裕福になったが、この「経済成長」はどうやって達成されたのだろうか？といった疑問に答えるものである。(本の紹介文より)。 授業では重要な部分を抜き出しながら、読み進め、半期の授業で1冊読了する。授業で課題にとりくみながら読むことにより、独自に読むのとはまた違う知見を得ることになるだろう。
科目の到達目標 (理解のレベル)	この科目は、「DP2「グローバルな視点を含めて、さまざまな視点から経済社会を総合的に理解するために必要な社会科学の幅広い知識と教養を身につけている」に寄与するものである。従って、科目の到達目標は以下となる。 ①経済史の視点に基づき、経済社会を総合的に理解できる。 ②①に基づき、経済社会が直面する課題を発見し、解決するための方法を頭に描ける
授業形態	講義
授業方法	【講義形式で実施】 授業は以下の手順で行う。 ①予習課題: 前の週までに、文献のハイライトを抜き出した教材と読解のポイントに関する質問をmanabaにアップするので、授業時間までに読んでおくこと ②授業では、各自が質問シートに回答を書いた後で解説を行う。
授業計画	【第1回】序章 内容: ①授業の進め方の説明、②テキストについて 【第2回】第1章 いつ、なぜ、どのようにして世界は豊かになったのか？ 【第3回】第2章 地理 幸運な地理的条件はあるのか 【第4回】第3章 制度 経済成長は社会制度しだい 【第5回】第4章 文化 人を豊かにする文化、貧しくする文化 【第6回】第5章 人口 人口動態と経済成長 【第7回】第6章 植民地 植民地と搾取の問題 【第8回】第7章 北西ヨーロッパ なぜ最初に豊かになれたのか？ 【第9回】第8章 産業革命 なぜオランダではなくイギリスだったのか 【第10回】第9章 工業化 近代経済にいたる道 【第11回】第10章 後発国 キャッチアップ型成長の前提条件 【第12回】第11章 世界は豊かである 【第13回】終章 これからの成長にむけて
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	事前学習: テキストを読んでおくこと 事後学習: 授業で扱うのは、テキストのごく一部である。授業の後には当該箇所の全体を読んでおくこと。本文の読解、レポートの構成作業などで1回に5.1時間は要する作業となる。
成績評価方法・基準	1. 平常点(課題の提出) 40% 2. 学期末レポート 60%

	学期末レポートの採点基準については、授業で説明する。
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	(指定図書) マーク・コヤマ, ジャレド・ルービン, 秋山 勝訳『「経済成長」の起源: 豊かな国、停滞する国、貧しい国』草思社、2023年。
履修上の留意点	経済史文献講読Ⅰ、経済史概論を履修していることが望ましい。
更新日	2024/3/19

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EF208
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	<a href="https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html">https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html</a>
講義コード	1EH000300
講義名	憲法
担当者名	富塚 祥夫
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	E
備考	

科目の趣旨	日本国憲法は質量ともに充実した内容を持った憲法であるが、その理念は制定以来多くの試練に立たされてきた。この科目では、憲法の歴史と憲法運用の実態を検証することにより日本国憲法の意義を再確認するとともに憲法解釈論を考えていく。テーマ例をあげると、日本国憲法の成立と意義、国民主権と象徴天皇制、戦争放棄と再軍備、平和運動、選挙、国会運営、行政権、人権の歴史、法の下での平等、差別、思想良心、表現、信教の自由、政教分離原則、刑事手続と人権、生存の保障、教育を受ける権利、労働基本権、プライバシーの権利と個人情報の保護等である。
授業の内容	憲法の学習においては、憲法というものがどのような役割をもった法なのか、通常の法律とは一体何が違うのかについて理解することがまず何よりも重要であり、そのためには立憲主義という概念の正しい理解が不可欠である。そこで、この授業では、まず立憲主義成立の背景にある精神や思想を学ぶことから始め、次いで立憲主義の歴史的展開、日本における憲法と立憲主義の歴史を学んでもらう。そのうえで、現在の日本国憲法が定める重要項目について、その意義と内容を確認しつつ、それらが日本社会の中で直面しているさまざまな問題状況について順次考察していくことにしたい。
科目の到達目標 (理解のレベル)	(1) 立憲主義の意味と重要性について理解し、説明できる。 (2) 国民主権、平和主義、権力分立制、代表民主制、違憲審査制などの統治に関する憲法上の基本原理について、その内容と現状の問題点を理解し、説明できる。 (3) 日本国憲法が保障する主要な人権項目について、その内容と現状の問題点について理解し、説明できる。
授業形態	講義
授業方法	授業は、主として講義形式で行う。具体的には授業開始時に書込み用のレジュメを配布するので、受講者は講義を聞きながら、必要事項をレジュメに書き込んでいくという形となる。授業の終盤では、講義内容に関する小テストを、manabaを使って行う。この小テストについては、次の授業の冒頭で、その解説を行う。質問は、授業中か授業後に教室で、また随時メールでも受け付ける。
授業計画	<p>【第1回】ガイダンス、憲法の精神と役割 内容: シラバスに基づくガイダンス(授業計画、事前・事後学習、成績の評価方法など)、憲法が規定すること、権力に対する不信と立憲主義、憲法遵守・尊重義務の主体(憲法の名死人)(テキストpp.2~3)</p> <p>【第2回】憲法における過去・現在・未来 内容: 立憲主義成立の思想的背景、権力者による立憲主義不要発言、民主主義のもとでの権力濫用、立憲主義における過去の重要性、憲法における「理想と未来」の意味(テキストpp.2~3、8~9)</p> <p>【第3回】立憲主義の成立と展開 内容: 立憲主義の成立、外見的立憲主義という亜種、立憲主義における権力拘束範囲の拡大(テキストpp.2~5、8~9)</p> <p>【第4回】大日本帝国憲法の成立および内容 内容: 制定史の概要、大日本帝国憲法の内容(テキストpp.6~7)</p> <p>【第5回】戦前における憲法と政治 内容: 大日本帝国憲法を構成する2つの要素、憲法の拘束範囲の不十分性と現実の政治過程、昭和における軍部の台頭(テキストpp.6~7)</p> <p>【第6回】敗戦と日本国憲法の成立 内容: 日本国憲法成立の経緯、憲法制定に対する日本国民の関与、憲法制定に対する極東委員会(=国際世論)の関与、押しつけ憲法論の一面性(テキストpp.12~17)</p> <p>【第7回】象徴天皇制の内容 内容: 象徴という言葉の意味、象徴天皇制の消極的側面、象徴天皇制の積極的動的側面、(テキストpp.104~105)</p> <p>【第8回】象徴天皇制の実態 内容: 天皇の元首扱い、国事行為以外のいわゆる公的行為の氾濫、天皇の権威強化、天皇の政治的利用、マスメディアの皇室報道(テキストpp.104~105)</p> <p>【第9回】日本国憲法と平和主義 内容: 戦争放棄の歴史、憲法9条の規定内容、日本国憲法前文の平和主義理念(テキストp9、p26)</p> <p>【第10回】平和主義の現状 内容: 憲法9条の解釈、再軍備の経緯と正当化理由の変遷、日米安保体制の成立と展開、「日米安保」から「日米同盟」へ、平和防衛政策の後退、戦争法制の整備(テキストpp.26~39)</p> <p>【第11回】日本国憲法と権力分立制 内容: 権力分立の目的と種類、大統領制と議院内閣制、日本国憲法と三権分立制、地方自治(テキストpp.86~87、100~101)</p> <p>【第12回】国民主権と代表民主制 内容: 国民主権、代表民主制、国会の地位、二院制、選挙制度(テキストpp.80~85)</p> <p>【第13回】司法権と違憲審査制 内容: 司法権の独立、違憲審査制、司法権の民主的コントロール(テキストpp.90~95)</p>

	<p>【第14回】憲法による人権保障の意味 内容: 人権保障における法律と憲法の違い、憲法による人権保障の意味、人権の私人間効力をめぐる議論(テキストpp.48～51)</p> <p>【第15回】人身の自由 内容: 刑罰権の必要性と危険性、戦前の状況、日本国憲法と適正手続主義の採用(テキストpp.64～65)</p> <p>【第16回】刑事手続の現状 内容: 令状主義の空洞化、自白の強要、裏付け捜査の不徹底、長期の身柄拘束など(テキストpp. 64～65)</p> <p>【第17回】思想・良心の自由 内容: 保障の意味、保障の具体的内容と侵害事例(テキストpp.54～55)</p> <p>【第18回】信教の自由 内容: 精神的自由の原型・母胎としての宗教の自由、日本国憲法と信教の自由など(テキストpp.56～57)</p> <p>【第19回】表現の自由 内容: 意義と弱点、表現の自由保障の法理(テキストpp.58～59)</p> <p>【第20回】選挙権と選挙活動の自由 内容: 普通選挙権獲得の苦難の歴史、今日の選挙権の問題、べからず選挙運動など(テキストpp.80～81)</p> <p>【第21回】学問の自由 内容: 保障の意義、保障内容と限界、大学の自治(テキストpp.62～63)</p> <p>【第22回】経済的自由と社会権 内容: 日本国憲法と経済的自由、経済的自由の光と陰、社会権思想の登場と経済的自由の制約など(テキストpp.66～75)</p> <p>【第23回】平等権 内容: 日本国憲法における平等保障規定、保障の意味(テキストpp.52～53)</p> <p>【第24回】人権の享有主体性 内容: 国民、未成年者、天皇・皇族、法人、外国人(テキストpp.46～47、50～51)</p> <p>【第25回】包括的権利としての幸福追求権 内容: 無名の人権に対する憲法的対応、幸福追求権の保障範囲、無名の人権の候補(テキストpp.44～45)</p> <p>【第26回】人権保障の限界 内容: 人権制約の根拠、特別権力関係論(テキストpp.42～43)</p>
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の受講前に、教科書の該当箇所を読んでおくこと。また、分からない用語が出てきた場合は、インターネット等を用いて調べておくこと。</li> <li>・授業で使った書込み用レジュメを見直して、復習を行うこと。そのうえで質問等があれば、積極的にメールなどで私に問い合わせること。</li> <li>・憲法の理念が実社会の中でどこまで実現されているのかを知らないのかを知るために、毎日、新聞を読むこと。</li> <li>・授業の中で紹介する参考文献にも積極的に目を通すこと。</li> </ul>
成績評価方法・基準	小テストの成績30%、定期試験の成績70% いずれについても、科目の到達目標の達成度を基準として評価を行う。
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	<p>教科書: 播磨ほか『新・どうなっている!? 日本国憲法〔第3版〕』法律文化社</p> <p>参考文献: 井上典之編『憲法の時間 第2版』有斐閣          渋谷秀樹『憲法への招待 新版』岩波新書          田村 理『国家は僕らを守らない』朝日新書</p>
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書は受講(中の資料参照や予習・復習)のためには必須であり、必ずまた早めに入手すること。</li> <li>・スマホのresponアプリを使って出席をとるので、授業には必ずresponアプリを入れたスマホを持参すること。</li> <li>・また、小テストの受験のためにも、スマホやパソコン等のmanabaにアクセスするための情報機器の用意が必要である。</li> </ul>
更新日	2024/3/19

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EF209
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	<a href="https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html">https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html</a>
講義コード	1EH000400
講義名	民法
担当者名	長岐 郁也
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	E
備考	

科目の趣旨	民法典は、私人間の権利関係や身分関係について規定する法律である。また、私人間で生じたトラブルを解決するための規範でもある。この科目の前半では、民法における財産法(総則・物権・債権)について具体的事例を挙げて説明し、権利の調整がどのように行われているかを理解することを意図している。この科目の後半では、民法における家族法(親族・相続)について具体的事例を挙げて説明し、権利の調整がどのように行われているかを理解することを意図している。
授業の内容	私法の一般法である民法は日常生活に関わる法律上のルールの多くを担っており、身近に感じることのできるルールもあれば、理解が難しいルールも存在する。こうしたルールについて、判例や学説などを用いて学習を進めていくこととなるが、民法の対象範囲は広範に及ぶため、まずはルールの概要を抑えることができるためにサブノートを作成し、教科書と併せて学習に利用することで理解の促進に役立てるものとする。
科目の到達目標(理解のレベル)	本講義では民法に定められる諸制度の基礎的理解を図るとともに、法的思考を身に付けることが目標であり、実際の社会でどのように作用しているのかを理解することができるようにすることが到達点となる。具体的には民法をテーマとするニュースを読み、その概要を理解できるようにする。
授業形態	講義
授業方法	教科書と教員作成のレジュメとサブノートを併用して講義を行う。 民法が規定する制度の解説がメインとなるが、適宜、民法に関わるニュース等を用いることで身近な問題に法がかかわることに触れていきたい。また、各回において講義の最後に小テストをmanabaを通じて実施し、理解の確認を行う。 なお、レジュメやサブノート等の掲出はすべてmanabaを通じて行うものとする。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>【第1回】ガイダンス</li> <li>【第2回】能力制度</li> <li>【第3回】法人制度</li> <li>【第4回】契約の成立</li> <li>【第5回】意思表示</li> <li>【第6回】債権の発生</li> <li>【第7回】債権の消滅</li> <li>【第8回】債務不履行の類型</li> <li>【第9回】債務不履行に対する救済と例外</li> <li>【第10回】責任財産の保全</li> <li>【第11回】人的担保</li> <li>【第12回】物的担保</li> <li>【第13回】物権変動</li> <li>【第14回】即時取得と時効</li> <li>【第15回】一般の不法行為</li> <li>【第16回】特殊な不法行為</li> <li>【第17回】婚姻</li> <li>【第18回】離婚</li> <li>【第19回】実親子関係</li> <li>【第20回】養親子関係と扶養</li> <li>【第21回】相続制度</li> <li>【第22回】相続の効力</li> <li>【第23回】相続の手続き</li> </ul>

	<p>【第24回】遺産分割</p> <p>【第25回】遺言</p> <p>【第26回】遺贈と遺留分</p>
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	講義を受講した後に再度教科書とサブノートを見返しながら、講義内容をノートにまとめることで理解の定着を図ること。 なお、法律用語を理解することは外国語を学ぶように難解でもあるため、法学用語辞典等の活用も望まれる。
成績評価方法・基準	初回を除く全25回で実施する小テスト(50%)と各期末の定期試験(50%)で評価する。
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での小テストの講評・解説については授業内でおこなう。
教科書・指定図書	教科書: 松久三四彦・遠山純宏弘・林誠司『オリエンテーション民法』[第2版](有斐閣、2022年) 参考書: 六法(種類は任せます)
履修上の留意点	私語は厳禁とする。 各回で実施する小テストは講義の確認であり、評価の対象となるため、必ず受講して受験すること。正当な理由による未受験は別途対応するので、不正受験は絶対にしないようにすること。
更新日	2024/3/19

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EF210
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	<a href="https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html">https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html</a>
講義コード	1EH000500
講義名	企業法
担当者名	達希 東日布
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E/I/C
備考	

科目の趣旨	<p>従来、商法・会社法を講義するにあたっては、まず最初に、その対象が形式的意義におけるものかそれとも実質的意義におけるものかということから説明を始めるのが常であった。にもかかわらず講義の中心は形式的意義におけるものであったこと間違いがない。特に会社法の講義は、形式的意義における会社法すなわち会社法典を中心に行われてきた。そこでは株主の利益を最重要なものとして位置づけ、「株主利益の最大化」が経営の最終目標であり、それを実現するために経営の自由度・効率性がいかに確保されるべきか、またそのような経営に対する株主のコントロールとしてどのようなガバナンスが用意され、また用意されるべきなのかという観点から考察が進められていった。いふならば株主中心の考え方である。しかし会社は、他の会社との間で商取引を行い、消費者に商品売り、証券市場で投資家相手に株式・社債を発行して資金調達を行い、あるいは企業買収者として株式を取得し、そして一般市民に対しては市場において、ともすれば競争制限的な経済主体として振る舞う。このように会社は、その活動において株主以外にも様々な利害関係者すなわちステークホルダーとの関係を取り扱うことでもある。このような会社のすべてのステークホルダーと関係する法律は、形式的意義における商法・会社法の枠にとまるものではなく、その範囲は、実質的意義における商法・会社法のそれと一致する。近時は、会社企業の多面的な渇仰に対する法を「企業法」とよび、会社法とは区別する場合がある。会社法が株主中心の考え方に立つのに対して、「企業法」は広くステークホルダー全体を中心とした考え方に立つといえよう。会社を「企業法」という概念に捉えなおすことは、複雑な利害関係の結節点としての会社が現代において、いかに重要な役割をはたしているかを再認識する場ともなる。</p>
授業の内容	<p>現代社会における代表的な企業形態として挙げられるのは、株式会社である。株式会社は現代の経済社会において特に重要な役割を果たし、その組織運営と活動を規律する会社法は、株式会社が直面する数々の問題に対応するための制度を設けている。</p> <p>本講義では、会社法の仕組み及び会社法上の各種制度の運用のあり方を理解するために、重要判例の解説を交えながら、会社法の基本となる制度を取り上げる。前期では事業資金調達のための法制度である株式会社がどのような法原則を基礎としているかをまず理解するところから始める。そして資金調達手段としての株式の発行、新株予約権の発行、社債の発行というように授業を進めていく。後期では、会社の機関を中心に授業を進める。会社の実質的所有者である株主総会、業務執行機関・監督機関としての取締役会、監査機関としての監査役(会)、そして会計監査人などがそれぞれどのようなガバナンスの下に組織化されているかを見ていく。</p>
科目の到達目標 (理解のレベル)	<p>この授業では、実社会で問題となっている会社(特に株式会社)の活動に関連する法律問題のうち会社法に関わる事象について、関連する条文や制度など基礎的な事項を説明できるようにすることを目標としている。</p> <p>また、会社法が関係する具体的な事例について、関連する条文や制度を参照しながら、当該事例における事実関係を踏まえて、一定の結論を導き出せることを目標とする。株式会社という制度が何を目的として設立され、そのために原理的にどのような仕組みが整えられているか、しかし日本という経済環境においてその原理がどのように変容されているかという大枠を理解することである。</p>
授業形態	講義
授業方法	初めて法律を勉強する人でも理解できるように配慮して、法律用語の解説をしながら、講義形式で授業を行う。適宜、質疑を取り入れたいと考えている。本年度は原則的に対面方式で授業を行うが、manaba等も利用する。
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス 本講義の到達目標と評価方法等の説明。私たちの生活と企業がどのようにかわり、企業法を学ぶことがどのような意味をもつのかを説明する。</p> <p>【第2回】 企業とは何か 会社である企業と会社形態でない企業との違いを説明する。</p> <p>【第3回】 株式会社法総論 一株主有限責任と株式譲渡の自由—所有と経営の分離、株主有限責任制度および法人格否認の法理について説明します。</p> <p>【第4回】 会社設立1 設立の概要、定款の記載事項、変態設立事項等を説明する。</p> <p>【第4回】 会社設立2 設立関与者の責任等を説明する。</p> <p>【第5回】 株式1 株主の権利と株主平等原則 株主の地位、株主平等の原則および株主の権利行使について説明する。</p> <p>【第6回】 株式2 株式の種類と内容 株式の種類、株式譲渡自由の原則およびその例外について説明する。</p> <p>【第7回】 株式3 単元株式、株式分割、株式併合、株式消却</p> <p>【第8回】 株式4 株式の譲渡と譲渡制限</p> <p>【第9回】 株式5 自己株式の譲渡とその規制</p> <p>【第10回】 会社の資金調達1 新株の発</p> <p>【第11回】 会社の資金調達2 新株発行の瑕疵</p> <p>【第12回】 会社の資金調達3 新株予約権の発行</p>

	<p>【第13回】 会社の資金調達4 社債の発行</p> <p>【第14回】 株式会社の機関と機関設計の選択 株式会社の機関の権限について説明した上で、機関設計の違いについて説明する。</p> <p>【第15回】 株主総会の招集と株主提案権 株主総会の権限、招集の手続および株主提案権について説明する。</p> <p>【第16回】 議決権行使と株主総会の瑕疵 議決権行使と株主総会の瑕疵の問題について説明し、関連する判例を検討する。</p> <p>【第17回】 取締役の資格、会社との関係 取締役の善管注意義務と忠実義務の関係、経営判断原則、および内部統制システムについて説明する。</p> <p>【第18回】 取締役の利益相反行為の規制 取締役の競業禁止義務、取締役の利益相反取引に関する規制について説明する。</p> <p>【第19回】 取締役の責任 取締役の会社に対する責任および第三者に対する責任について説明する。</p> <p>【第20回】 取締役会の権限 取締役会の権限について説明する。</p> <p>【第21回】 取締役会の招集手続と瑕疵ある場合の決議の効力</p> <p>【第22回】 代表取締役</p> <p>【第23回】 監査機関と会計監査人</p> <p>【第24回】 指名委員会等設置会社・監査役会等設置会社</p> <p>【第25回】 組織再編の手続 組織再編の手続について、合併、会社分割、株式交換・株式移転における差異を意識しながら説明する。</p> <p>【第26回】 組織再編における株主・債権者保護 組織再編の手続に違法な点があった場合の株主・債権者等の救済手段について説明する。</p>
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	予習として、参考書等を利用し、各回の概要を把握すること。復習として、配布レジュメの重要箇所(講義中に指摘)を中心に読み直し、各制度(特に意義および趣旨)の理解を深めること。株式会社の理論面だけではなく、現実の株式会社の活動(良いことも悪いことも含めて)にも興味をもつことで、株式会社というものがより身近なものと感じられるようになり、株式会社という存在を理解しやすくなる。新聞の経済面、社会面を日々丹念に読んで、株式会社の行動とそれが引き起こす社会現象を客観的に観察する目を養ってほしい。
成績評価方法・基準	成績評価は、平常点(30%)、期末試験(70%)により行う。合計が60点以上の場合を合格とし、60点未満の場合を不合格とする。なお、合格者の評価については相対基準を導入する。課題に学習態度をも加味して評価するので、まずは課題提出期限を厳守すること。
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	教科書 : 「新・ワンステップ会社法」 嵯峨野書院 参考図書: 「会社法入門」(新版) 神田秀樹 岩波新書 「株式会社とは何か」 友岡 賛 講談社現代新書 「そもそも株式会社とは」 岩田喜久男 ちくま新書
履修上の留意点	新聞紙上の経済欄に常に目を通す習慣を身につけて、株式会社の様々な活動やそれが与える社会的影響について、身近な問題として感じるようにしてほしい。 受講者数については、制限の予定はないが、教室の収容人数の関係で、事後的に教室変更または人数制限があるかもしれない。
更新日	2024/3/19

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EF211
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	<a href="https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html">https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html</a>
講義コード	1EH000600
講義名	経済法
担当者名	寺川 祐一
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	B/E
備考	

科目の趣旨	経済法の概念については、まだ定説はないが、資本主義経済の高度化に伴い、市場経済秩序の自律調整作用が機能しなくなったことにより取引や競争の自由と公正さを確保するため、また各種経済政策の目的を実現するため、国家が、国民経済的立場から、市場経済をコントロールする法の総称として理解されている。経済法は、競争制限・競争阻害行為を排除することにより、公正かつ自由な競争を促進し、健全な国民経済の形成を目的とする独占禁止法を中心とし、その他の各種の個別的規制に関する処方を含む法領域であると言ってよい。
授業の内容	独占禁止法を中心に学ぶ。独占禁止法で禁止されている私的独占、不当な取引制限(価格カルテル、入札談合等)及び不公正な取引方法(再販売価格の拘束、優越的地位の濫用等)について、具体的事例を題材として学ぶ。また、合併、株式取得等の企業結合に対する独占禁止法による規制について学ぶ。最近ではグローバル化が進み、国内企業にとっても外国の競争法(独占禁止法)が重要になってきていることから、米国、EU等の競争法についても学ぶ。
科目の到達目標(理解のレベル)	独占禁止法に基づく規制内容及びその事例を理解することにより、事業者の経済活動のあり方について学び、自身の経済活動において独占禁止法及びその関連する法律違反に問われないように留意すべき事項を習得する。合わせて、他の事業者の独占禁止法違反行為による被害を回避するための対応を可能にする。
授業形態	講義
授業方法	manabaにおいて事前に資料を提供し、資料の内容をある程度理解したことを前提として、主にパワーポイントを用いて授業を進める。授業の理解度を確認するため、小テストを4~5回実施する。小テスト実施後に解答について解説を行う。
授業計画	<p>【第1回】 経済法及び独占禁止法(競争法)の概要</p> <p>【第2回】 独占禁止法の歴史(日本)</p> <p>【第3回】 不当な取引制限1 価格カルテル</p> <p>【第4回】 不当な取引制限2 入札談合</p> <p>【第5回】 不当な取引制限3 排除措置命令</p> <p>【第6回】 不当な取引制限4 課徴金納付命令</p> <p>【第7回】 不当な取引制限5 刑事事件</p> <p>【第8回】 不当な取引制限6 官製談合</p> <p>【第9回】 不当な取引制限7 国際カルテル</p> <p>【第10回】 不当な取引制限8 その他、事業者団体による独占禁止法違反行為等</p> <p>【第11回】 不公正な取引方法1 不公正な取引方法の概要</p> <p>【第12回】 不公正な取引方法2 再販売価格の拘束</p> <p>【第13回】 不公正な取引方法3 拘束条件付取引、差別的取扱い等</p> <p>【第14回】 不公正な取引方法4 不当廉売、取引妨害等</p> <p>【第15回】 不公正な取引方法5 優越的地位の濫用</p> <p>【第16回】 下請代金遅延等防止法の概要</p> <p>【第17回】 私的独占1 私的独占の概要</p> <p>【第18回】 私的独占2 私的独占の事例</p> <p>【第19回】 不公正な取引方法及び私的独占に対する規制手続</p> <p>【第20回】 確約手続(最近導入された法律上の手続)</p> <p>【第21回】 企業結合規制 企業結合規制の概要と最近の事例</p> <p>【第22回】 法的規制・手続のまとめ、民事訴訟、その他</p> <p>【第23回】 景品表示法(独占禁止法を起源とする消費者法) 規制の概要</p>

	<p>【第24回】 景品表示法 表示規制を中心とする事例</p> <p>【第25回】 米国及びEUにおける競争法運用の概要</p> <p>【第26回】 東西冷戦終焉(1989年～91年)以降の国際経済の変化と競争政策の動向</p>
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	事前に準備しておく事項を適宜manabaで知らせます。主に公正取引委員会の公表資料、インターネット上のニュースを必要に応じて提示します。講義の後、理解できない内容については遠慮なく質問してください。
成績評価方法・基準	小テスト(4～5回)の結果の総計により評価を決めます。
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(小テスト)の講評・解説については授業内(口頭)及びmanaba上で行う。
教科書・指定図書	教科書 なし 参考図書等 経済法 第9版補訂 岸井大太郎、大槻文俊他 有斐閣 はじめて学ぶ独占禁止法 菅久修一編著 商事法務 公正取引委員会のホームページ(独占禁止法の解説と伴に事例紹介等が大変豊富です。事前に読むべき資料を適宜指示します。)
履修上の留意点	履修する上で前提とする科目等はありません。一般的に法律を理解するための基礎的知識があることを前提で授業を進めますが、経済学部との合同科目であるため、独占禁止法の法解釈等の難しい問題にはあまり踏み込まずに、現実の事件を題材として理解しやすい説明を行う予定です。 独占禁止法に関連する話題はインターネット上のニュースでも頻繁に取り上げられています。独占禁止法の条文そのものには理解が難しい部分がありますが、現実の問題となる事件は学生でも興味深い事例が多いと思います。毎日のニュースを見て、日本や海外の競争法に関する動きをフォローするようにしてください。
更新日	2024/3/19

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EF212
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	<a href="https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html">https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html</a>
講義コード	1EH000700
講義名	商法
担当者名	佐藤 文彦
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	E
備考	

科目の趣旨	前半の最初に、取引に関する法的ルールとしての商法の独自性と商法が適用されるべき場合に重要となる商行為概念と商人概念の検討を行い、商法全体の枠組みを理解する。次に、企業の主体としての商人の商号とその保護、商人の営業と営業譲渡そして営業補助者としての商業使用人と代理商を扱うことにより、商人が取引においてどのような法的ルールのもとにおかれているのかを立体的に理解する。後半では、商人間取引の総論と各論を主に取り扱う。総論としては、商人間取引の基本的特色として効率性の問題を取りあげる。各論では商人間取引の典型であり、起点である国際売買取引から考察を開始し、その後人と物の流れを担う運送取引、取引の仲介としての取次ぎ・仲立そして倉庫営業と順次論を進めていき、商人間取引の有機的な連関をより実感を持って統一的に把握できるようにする。
授業の内容	現代世界の(金融)資本主義経済体制にあって、その中心的・絶対的な活動主体は、株式会社企業法人である。この株式会社企業法人を含む会社企業法人全般を規律する法(領域)は「会社法」であるが、この「会社法」は元々は「商法」という法律内容の一部を構成していた法で、平成17年に「商法」から独立して単体の法律とされたものであり、その「会社法」には「商法」が規定する商法総則に相当する規定群が組み込まれ、その規整対象である会社企業法人には、やはり商法が規定する商行為法が引き続き直接適用される。したがって起業家や企業関係者にとって、本科目講義で扱う商法総則・商行為法をその主要な構成内容とする「商法」が重要であることに変わりはない。本科目講義では、これら法に規定されている諸制度を、一般法である民法上の諸制度と併せて立体的かつ体系的に学んでもらい、企業実務、とりわけその対外的活動に携わる者としての法実践的な素養を身につけてもらうことをねらいとする。むろん、本科目は法学を専攻していない経済学部の学生諸君を対象とするものであることから、これにともない商法学に関連する基本概念内容を適宜確認することも予定している。
科目の到達目標(理解のレベル)	われわれが生活しているこの資本主義経済社会において現実活動している、とりわけ株式会社企業法人を主とする「商人」全般のその活動に、法は本質的にどのように関わっているのか、また関わるべきなのか、この点についての基本的な考え方を、本科目授業にて展開される、商法が商法総則(第一編)と商行為法(第二編)にて規定する各種法制度や商法学関連基本概念、さらには憲法に始まり民法から商法・会社法に至る法体系についての内容解説の理解を通じて学修し、学生諸君がより広い視野から各自の専攻学問分野である経済学と取り組みうるようになることを到達目標とする。
授業形態	講義
授業方法	授業は、講義形式を基本としつつ、板書により補完的に解説を加えていく形にて行う予定である。授業では、講義内容に関する理解度およびその前提としての基本的知識を確認するため、学生諸君に対して各回発言を適宜に求め、また場合によってはmanabaにより課題レポートを課すこととする。講義内容について生じた疑問や不明な点は、その講義中に積極的に質問することを推奨する。
授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス:講義の進め方などの説明</p> <p>【第2回】 ・商法学入門[1] 内容: 商法・会社法のわが国法体系上の位置づけ</p> <p>【第3回】 ・商法学入門[2] 内容: 商法・会社法の存立意義</p> <p>【第4回】 ・序 商法を学ぶにあたって 内容: 商法と実社会とのかかわり、商法「学」との組み合わせ方 ・第1編第1章 商法の意義 内容: 商法の(意味内容としての)意義、商法学の射程をめぐる諸学説(とくに企業法説) ・第2章 商法の形成と展開 内容: 商法という法分野の史的展開・比較法的考察</p> <p>【第5回】 ・第3章 商法の法源 内容: 商法の法源としての商事制定法・商慣習(法)・商事自治法 ・第4章 商法の適用 内容: 商法の適用順位と他の法分野との序列</p> <p>【第6回】 ・第2編第1章 商人とその営業[1] 内容: 商人の意義・種類</p> <p>【第7回】 ・第2編第1章 商人とその営業[2] 内容: 商人資格の得喪、営業能力 ・第3編第1章 総論[1] 内容: 企業取引の種類と性質、商行為の種類</p> <p>【第8回】 ・補説 商法規整対象としての銀行事業</p>

	<p>【第9回】 ・第2編第2章 企業の物的要素〔1〕 内容：商号の意義とその得喪、商号権、名板貸し</p> <p>【第10回】 ・第4章 企業の公示・商業登記 内容：企業の公示制度としての商業登記の存在意義・手続き・法的効力</p> <p>【第11回】 ・第2章 企業の物的要素〔2〕 内容：商業帳簿制度の趣旨と射程レベル、商法と会計慣行、商業帳簿の種類・作成等義務</p> <p>【第12回】 ・第3編第1章 総論〔2〕 内容：商行為の代理、商事委任・寄託関係、商人の報酬請求権、商事利息請求権、特定物引渡債務の取立性、商事債務の連帯化、商事留置権の拡張性</p> <p>【第13回】 ・第3章 企業の人的要素〔1〕 内容：商業用人制度の趣旨、支配人の権限と義務、表見支配人、特定事項等受任使用人、物品販売等店舗使用人</p> <p>【第14回】 ・第3章 企業の人的要素〔2〕 内容：代理商制度 ・第3編第1章 総論〔3〕 内容：企業取引補助商としての代理商・仲立人・問屋営業者</p> <p>【第15回】 ・第2編第5章 企業の移転・担保化 内容：営業譲渡、当事者の義務・責任、利害関係者保護制度、営業の賃貸借・経営委任・担保化</p> <p>【第16回】 ・第2章 商事売買取引〔1〕 内容：商事売買と商法の規定、委託販売</p> <p>【第17回】 ・第3編第2章 商事売買取引〔2〕 内容：国内企業間商事売買関係の実際（フランチャイズ契約関係等）</p> <p>【第18回】 ・第3章 運送取引〔1〕 内容：運送取引規整概観、運送契約、運送契約当事者の権利・義務</p> <p>【第19回】 ・第3章 運送取引〔2〕 内容：運送人の損害賠償責任</p> <p>【第20回】 ・第4章 運送「取扱」取引 内容：運送取扱取引関係の概要 ・第2章 商事売買取引〔3〕 内容：国際売買</p> <p>【第21回】 ・第6章 場屋取引 内容：場屋取引の意味内容、場屋営業者の責任</p> <p>【第22回】 ・第5章 倉庫取引 内容：倉庫寄託契約、倉庫営業者の権利・義務、倉荷証券</p> <p>【第23回】 ・第7章 金融取引〔1〕 内容：交互計算</p> <p>【第24回】 ・第7章 金融取引〔2〕 内容：匿名組合契約</p> <p>【第25回】 ・第7章 金融取引〔3〕 内容：リース取引の仕組み・法的性質</p> <p>【第26回】 ・第9章 保険取引 内容：保険契約の意味内容・法的性質、保険取引の法源</p>
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>事前学修としては、各回授業項目にかかり指示される範囲にて教科書を関連条文を参照しながら精読し、その内容を自分なりに理解するよう努めること。</li> <li>事後学修として、講義時間にて口頭および板書にて解説された内容を整理するよう努めること。またその際に興味のわいた、または疑問に感じた事柄については、まずは自分で図書館やWeb上にてさまざまな公開資料にあたり、自分なりの仮説的結論を導き出しておくこと。</li> <li>新聞やWeb上のNewsに毎日目を通し、現在の日本経済がいかなる状況にあって、その活動主体としての株式会社企業法人を中心とする商人たちはその所与の状況にいかに対処しようとしているのか、また対処すべきなのか、その把握に意識的に努めること。</li> </ol>
成績評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価は、期末試験結果および授業参加度（発言・個別課題レポート含む）に拠り、それぞれの割合を90%、10%として行うものとする。</li> <li>・授業参加度がきわめて不良であるとき、または別途個別課題レポートが未提出の場合、評価対象外となりうるので、留意してもらいたい。</li> <li>・むろん、欠席回数が9回以上となった場合には、当然に評価対象外となる。なお、遅刻と早退についても、その回数によっては評価対象外となりうるので、留意してもらいたい。</li> </ul>
課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法	本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。

教科書・指定図書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 落合ほか『商法Ⅰ—総則・商行為 第6版』(2019, 有斐閣)2310円。</li> <li>2. 長谷部ほか編『有斐閣判例六法 令和6年版』(有斐閣, 2023年)3740円(なお, すでに別の六法を入手している場合には, それにて代用可)。</li> </ol>
履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 六法を必ず持参すること。</li> <li>2. 単に出席をしているだけでは, 単位修得は難しい。主体性・積極性をもって講義に臨む学生諸君を歓迎する。</li> </ol>
更新日	2024/3/19

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EE207
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	<a href="https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html">https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html</a>
講義コード	1EH000800
講義名	経営学
担当者名	松本 久良
開講情報	
単位数	4
受講可能学部	E
備考	

科目の趣旨	企業経営に関する基礎的な概念や理論についての知識を広く体系的に習得することを目的とする。本講義では、まず前半で企業の果たす役割、株式会社制度の生成と発展、企業統治と社会的責任など「企業とは何か」を主題に学習する。後半では資本の論理と組織の論理をどのように接合するのかということを考えつつ、企業の目的、企業活動の枠組み、経営理論、経営組織、経営戦略など「経営とは何か」を主題に学習する。
授業の内容	本講義では経営学およびその主たる研究対象である企業に関する基本的知識を学びます。経営学には理論と実践とのバランスが求められるという特徴があるので、論理的な考え方と合わせて具体的な企業の実例やケース研究などを通じて、企業の活動について実践面からのアプローチも行います。また、企業にはその活動を経営環境の変化に応じて柔軟に変化させるという特性もあるので、大きく変わる現在の環境下で企業はどのように変貌しようとしているのかという新たな動向についても検討します。春学期はおもに企業とその基本的な構造について学び、秋学期は戦略や組織の問題など具体的かつ応用的な事柄について、事例を取り上げるなどより実践的に学びます。
科目の到達目標 (理解のレベル)	自分の言葉で企業や経営について分析できるようになることを目指します。企業が活動の場をいっそう海外市場へとシフトする中で、国内の雇用や報酬のあり方も大きく変貌しようとしています。こうした状況の中で、これから組織の一員として活躍することになるということからも、企業とは何か、どうあるべきか、また自らは企業とどのように向き合うべきなのか、こうしたことについて積極的に考える思考力を身に付けることを目標とします。
授業形態	講義
授業方法	教室での対面授業になります(春学期13回+秋学期13回=全26回)。授業形態は講義が中心になりますが必要に応じて質疑応答や討論なども取り入れます。授業を補完するツールとしてmanaba(授業支援システム)を利用します。manabaは、課題の提示と提出、テキストの内容の理解度を問う確認テストの実施、質問等の受け付け、授業資料の掲出、フィードバックの実施、授業情報の掲示、出席の確認、など多方面に援用します。
授業計画	<p>以下のようなスケジュールを予定しています。受講の状況や講義の進展に応じて、各回の内容や課題などについては変更する場合があります。基本的にはテキストに準拠し進めていき、春学期にテキストの1～7章を、秋学期に8～12章を学習し、年間を通じて全章をポイントを中心に学習します。</p> <p>【第1回】4月23日(春学期授業開始)  &lt;ガイダンス、経営学の概要&gt;  内容: 受講に際しての確認事項、テキストの概略、経営学とは何か、企業とは何か、経営学と経済学</p> <p>【第2回】4月30日  &lt;企業の役割について考える&gt;(第1部第1章 1～5ページ)  内容: 身近な存在としての企業、生活のサポーター、資源を用いての生産と創造、果たすべき責任</p> <p>【第3回】5月7日  &lt;企業と社会との関係について考える&gt;(第1章 5～13ページ)  内容: 企業社会、ビジネス化、ライフスタイルの創造と革新、IT化とグローバル化</p> <p>【第4回】5月14日  &lt;企業についてのさまざまな見方を理解する&gt;(第2章 14～23ページ)  内容: 企業に対する多様なイメージ、目標と存続・成長、企業はだれのものか、企業の分類、企業形態論</p> <p>【第5回】5月21日  &lt;システム論と現代経営学について考える&gt;(第2章 23～33ページ)  内容: オープン・システムとクローズド・システムという観点、システムとサブシステム、現代経営学の3つの主要な観点</p> <p>【第6回】5月28日  &lt;行政やNPOとの関係について考える&gt;(第3章 34～46ページ)  内容: グッド・ライフと行政、NPOと社会起業家、3つの主体としての企業・行政・NPO</p> <p>【第7回】6月4日(第1回理解度確認テストの実施(1・2・3章))  &lt;企業を理解する多様な手段について知る&gt;(第4章 47～60ページ)  内容: 情報収集、企業情報、情報の加工度、情報の質量マトリックス、さまざまな隣接学問</p> <p>【第8回】6月11日  &lt;経営者の仕事とはどのようなものかを知る&gt;(第II部第5章 61～68ページ)  内容: 伝統的な役割と革新的な役割、場とフィールド、階層の違いと仕事の違い</p> <p>【第9回】6月18日  &lt;経営理念と人的資源に対する役割を考える&gt;(第5章 68～76ページ)  内容: トップの役割としての理念制定、ビジョンづくり、文化の醸成、組織メンバーの活用と育成</p> <p>【第10回】6月25日  &lt;企業の仕組みを理解する&gt;(第6章 77～81ページ)  内容: 企業の成長過程、所有・経営・労働、統制の範囲、所有と経営の分離、大規模企業の特徴</p>

	<p>【第11回】7月2日  &lt;企業の構造と統治について考える&gt;(第6章 81~91ページ)  内容:階層と部門、意思決定、リーダーシップ、株式会社、ガバナンス</p> <p>【第12回】7月9日(第2回理解度確認テストの実施(4・5・6章))  &lt;起業の意味と促進要因を理解する&gt;(第7章 92~97ページ)  内容:アントレプレナー(シッフ)、起業家の特徴、起業を促すさまざまな要因、インキュベーター</p> <p>【第13回】7月16日(春学期授業終了)  &lt;起業の3つの形態とポイントを理解する&gt;(第7章 97~107ページ)  内容:ニューベンチャー、スタート・アップ、ビジネス・プラン、起業の際の問題点  7月30日の春学期試験について留意すべき点を説明する。</p> <p>【第14回】10月1日(秋学期授業開始)  &lt;企業間関係の意味と3つのパースペクティブを理解する&gt;(第8章 108~115ページ)  内容:関係とは、資源依存、依存回避の方法、取引コスト、学習、アウトソーシング</p> <p>【第15回】10月8日  &lt;企業間関係の種類とグループ経営を理解する&gt;(第8章 115~126ページ)  内容:戦略と関係づくり、M&amp;A、合併、買収、戦略的提携、合併、グループ経営の代表例、戦略的グループ経営</p> <p>【第16回】10月15日  &lt;経営戦略の役割と変遷を知る&gt;(第Ⅲ部第9章 127~135ページ)  内容:環境適応と戦略、戦略と戦術、代表的な定義、PPM、競争戦略、戦略と組織、戦略的経営</p> <p>【第17回】10月22日  &lt;ドメインと競争戦略について考える&gt;(第9章 135~138ページ)  内容:戦略の体系化、企業戦略とドメイン、競争戦略とは何か、代表的な3つの基本競争戦略</p> <p>【第18回】10月29日  &lt;競争地位別の基本戦略と製品のライフ・サイクルを学ぶ&gt;(第9章 138~143ページ)  内容:業界内の4つの地位と戦略、フォロワーとニッチャー、PLCの各段階と戦略</p> <p>【第19回】11月12日(第3回理解度確認テストの実施(7・8・9章))  &lt;組織についての基本的な考え方を理解する&gt;(第10章 144~148ページ)  内容:組織成立の3要素、組織構造の決定要因、伝統的な管理原則</p> <p>【第20回】11月19日  &lt;組織の代表的な形態を理解する&gt;(第10章 148~153ページ)  内容:職能部門別組織、事業部制組織、マトリックス組織</p> <p>【第21回】11月26日  &lt;組織の実行性と人材・文化について理解する&gt;(第10章 153~160ページ)  内容:フラット化、ネットワーク化、カンパニー制、人材の育成、文化の醸成、コミュニケーションの活性化</p> <p>【第22回】12月3日  &lt;経営環境とは何か考える&gt;(第11章 161~166ページ)  内容:変容する現代の経営環境、オープン・システムと経営環境、組織と環境とのボーダー・ライン、バリュー・チェーンと境界</p> <p>【第23回】12月10日  &lt;経営環境の分析と適応について考える&gt;(第11章 167~178ページ)  内容:環境の種類と把握、PEST分析、5つの力分析、内部環境分析、SWOT分析、VRIO分析、環境適応の課題</p> <p>【第24回】12月17日  &lt;経営資源の役割と分類を学ぶ&gt;(第12章 179~185ページ)  内容:厳しい環境下での成功の理由、4つの経営資源の確認、情報的資源の中身、特性による資源分類</p> <p>【第25回】1月7日  &lt;経営資源の配置・評価・活用を学ぶ&gt;(第12章 186~194ページ)  内容:価値連鎖から資源の配置を理解する、分析手法から資源を適切に評価する、資源の有効活用について</p> <p>【第26回】1月14日(秋学期授業終了)(第4回理解度確認テストの実施(10・11・12章))  &lt;春・秋学期の総括&gt;  内容:春・秋学期の授業内容の中からとくに重要なポイントを再確認するとともに、今後の「経営学」の展望について述べる。  1月21日の秋学期試験について留意すべき点を説明する。</p>
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	事前学習としては、日頃から企業について関心を持ち、メディアを通じて発表される企業の戦略などの記事を読んだり、番組を視聴するなどして知識を得てください。そして、授業に積極的に取り組み、事後学習として受講後は記憶が新しいうちに必ず内容を復習するようにしてください。具体的には、授業で学習した理論的な知識をしっかりと身に付けるとともに、現実の企業の例にあてはめて考えるなど応用・発展を心掛けるようにし、理論と実践の両面から考える力を涵養してください。理解度確認テストやレポート課題などで理解のレベルを随時確認します。また、授業に関連したことで不明な点がある場合には些細なことでも結構ですので質問するようにしてください。
成績評価方法・基準	詳細は、春学期試験期間に実施する春学期試験(30%)、秋学期試験期間に実施する秋学期試験(30%)、レポート課題(20%)、理解度確認テスト(20%)、そして全回を通じての授業への出席、これらを総合的に評価した結果成績が確定します。対面授業全26回(春学期13回+秋学期13回)のうち、最低限2/3以上の出席が最終評価のために必須となります。出席状況についてこの基準を満たしていない場合、試験などの結果如何にかかわらず単位取得が困難になるので注意してください。なお、評価についての詳細や変更点などがある場合は授業中に案内します。
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	教科書⇒齊藤毅編著『経営学を楽しく学ぶ』第4版(中央経済社、2020年) ISBN 978-4-502-33781-9 受講者は必須となりますので開講時までに入手をお願いします。
履修上の留意点	積極的な学習への取り組みが必要になるとともに、出欠確認や提出物の締め切り等厳格に行いますので注意してください。また、亜大ポータルやmanabaに頻繁にアクセスして、授業の実施状況や課題・試験などの有無を必ず確認するようにしてください。105分間の授業時間中は集中して取り組み、真摯な姿勢で受講することが履修上の基本要件となります。経営や経済系の科目を履修していることが望ましいですが、本科目を履修するに際して必須となる科目はありません。



開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EA112
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	<a href="https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html">https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html</a>
講義コード	1EA011210
講義名	基礎会計学 I B組
担当者名	芝村 礼子
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/C
備考	

科目の趣旨	複式簿記原理に基づいた企業会計は、企業や公企業などの現実の経済主体の活動の計測に用いられるので、経済学を学ぶ者が修得する価値のある学問である。本科目は複式簿記原理に基づく企業会計について、初心者を対象に、その基礎的な考え方や技術を学修し、多くの課題をこなすことにより、日本商工会議所簿記検定2級の水準まで達することを目標とし、2年次以降の上級科目の学修につながるように意図されている。「基礎会計学 I」ではこの中のいくつかの領域を講義する。
授業の内容	<p>本講義は、基礎的なミクロ・マクロ経済学の学修者で複式簿記の学修経験がない物を対象として、財務会計論(商業簿記と財務諸表論)と管理会計論(工業簿記と原価計算)の基礎的な知識と基礎的な会計判断・処理能力の修得を目的とする。</p> <p>具体的には、日商簿記検定試験3級を中心に、基本的な考え方やしくみを講義した上で、実際に練習問題に取り組むことにより、経済学を学ぶ際に役立つだけでなく、実際に社会人になった時にも役に立つ知識やスキルの取得、資格取得の支援を行う。</p> <p>日商簿記検定試験は、公認会計士試験や税理士試験などの国家試験の前段階として位置づけられるだけでなく、すべての企業にとって必要不可欠な財務経理に必須の資格のため、就職活動において圧倒的に有利となる。また複式簿記は、営利企業に限らず、経済活動を営む非営利組織の経営成績と財政状態を明らかにするツールであるから、複式簿記の技術を身につけることにより、企業その他の組織の財務状況を分析し、投資選択、資金調達、経営管理の選択に役立てることができる。会計的な知識や処理能力だけでなく、財務諸表を理解する力、基礎的な経営管理や分析力が身につく、経理担当者だけでなく、全ての社会人に役立つ知識といえよう。</p>
科目の到達目標 (理解のレベル)	<p>財務会計論と管理会計論の基礎的な知識と基礎的な会計判断・処理能力の修得を目標とする。</p> <p>具体的には、本講義では簿記の学習経験がない初学者を前提として、簿記の基本的な原理を理解し、仕訳や記帳、決算等の知識を習得し、日本商工会議所の検定試験3級と同等レベル以上の商業簿記の知識と処理能力の修得を目標とするが、基礎会計学 I では、簿記の基礎および期中取引を中心とした内容となる。</p> <p>現実の経済主体の活動への理解を促し、資格取得に十分な知識を得るとともに、就職活動や社会人として役に立つ簿記・会計の知識を得ることも目指す。</p>
授業形態	講義
授業方法	<p>基本は教室での対面式の授業となる。</p> <p>ただし、状況によりオンライン授業の必要がある場合には、Microsoft社のTeamsを使用して資料掲示と解説を行う。授業時間中、適宜演習を行う時間を設け、各自演習の後、解説を行う。また、適宜のタイミングで、授業の後には復習のための課題を課す。</p> <p>基本は教科書を用いた授業となるが、適宜レジュメも配布する。</p> <p>レジュメの配布方法は、教室での手渡しまたはmanabaiにより行う。また、自宅にプリンターがないことも考慮して、希望があれば、ネットワークプリンターでのレジュメの提供も行う。</p> <p>Teamsでの受講が難しい場合には、個別に対応するので、必ず連絡すること(sibamura@asia-u.ac.jp)。</p> <p>出席は教室での出欠確認またはResponを使用する。</p>
授業計画	<p>【第1回】テーマ:オリエンテーション、簿記の意義</p> <p>【第2回】テーマ:簿記一巡</p> <p>【第3回】テーマ:帳簿組織、主要簿</p> <p>【第4回】テーマ:商品売買(1)掛取引</p> <p>【第5回】テーマ:商品売買(2)仕入諸掛</p> <p>【第6回】テーマ:現金・現金過不足</p> <p>【第7回】テーマ:預金、手形、固定資産(1)固定資産の取得</p> <p>【第8回】問題演習(1)</p> <p>【第9回】テーマ:その他の債権債務(1)未収・未払、前払・前受</p> <p>【第10回】テーマ:その他の債権債務(2)立替・預り、仮払・仮受、その他の勘定科目</p> <p>【第11回】テーマ:純資産、収益・費用</p> <p>【第12回】テーマ:訂正仕訳、補助簿</p> <p>【第13回】問題演習(2)</p>
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。

事前・事後学修の内容	<p>復習に十分に時間をかけること。授業中に具体的な考え方、問題の解き方の教授を行うので、後からもう一度自分自身で問題に取り組み、理解と自信を深めてほしい。わからない問題はそのままにせず、何度でも質問して、納得した上で理解を深め定ほしい。解けなかった問題は、マイナスに捉えるのではなく、今後自分が復習すべきテーマと捉え、同じ問題を時間を置きながら繰り返し取り組み込んでほしい。</p> <p>何度も解くことによって、必ず解ける、正解に結びつく問題が少しずつ増えていき、自信にもつながる。それと同時に、是非、何を間違えたのかノートにメモしてほしい。そのノートには、自分の苦手なテーマが書かれているので、テストの前などの直前の復習にも役に立つ。</p>
成績評価方法・基準	<p>平常点: 30%(授業に対する姿勢)、学期末のテスト(Responへの回答、宿題、レポート、課題等)70%</p> <p>授業中に演習、解説を行う。同じ問題に取り組み、わからない所や疑問点があれば質問し、内容を理解して自分の解ける問題を増やしてほしい。また課題は理解度を確認するためのものなので、点数が悪いことで評価を下げたりしない。それよりも、課題に取り組む中で自分の苦手なところを見つけて、理解を深めてほしい。逆に、単に答えを書き写しただけ、問題を解かずに提出だけすることは、評価減の対象となる。</p>
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	<p>本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。</p>
教科書・指定図書	<p>(教科書) 『最新段階式 日商簿記検定問題集 3級 四訂版』実教出版、2019年。ISBN→978-4-407-34774-6</p>
履修上の留意点	<p>① 実際に練習問題に取り組むので、各自10ケタ以上の計算機を用意すること(スマートフォンや携帯電話などについている計算機は不可)。 ② 実際に何度も取り組むことによりその理解度が飛躍的に向上する。必ず復習を行い、問題に取り組んだ上で授業に参加すること。</p> <p>授業計画は、概ね、このシラバスの通りであるが、担当教員によって多少異なる場合もある。授業方法や教科書などはクラスごとに異なる場合もあるので、詳細は各クラスの「実行シラバス」を参照すること。</p>
更新日	2024/3/19

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EA112
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	<a href="https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html">https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html</a>
講義コード	1EA011220
講義名	基礎会計学 I C組
担当者名	芝村 礼子
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/C
備考	

科目の趣旨	複式簿記原理に基づいた企業会計は、企業や公企業などの現実の経済主体の活動の計測に用いられるので、経済学を学ぶ者が修得する価値のある学問である。本科目は複式簿記原理に基づく企業会計について、初心者を対象に、その基礎的な考え方や技術を学修し、多くの課題をこなすことにより、日本商工会議所簿記検定2級の水準まで達することを目標とし、2年次以降の上級科目の学修につながるように意図されている。「基礎会計学 I」ではこの中のいくつかの領域を講義する。
授業の内容	<p>本講義は、基礎的なミクロ・マクロ経済学の学修者で複式簿記の学修経験がない物を対象として、財務会計論(商業簿記と財務諸表論)と管理会計論(工業簿記と原価計算)の基礎的な知識と基礎的な会計判断・処理能力の修得を目的とする。</p> <p>具体的には、日商簿記検定試験3級を中心に、基本的な考え方やしくみを講義した上で、実際に練習問題に取り組むことにより、経済学を学ぶ際に役立つだけでなく、実際に社会人になった時にも役に立つ知識やスキルの取得、資格取得の支援を行う。</p> <p>日商簿記検定試験は、公認会計士試験や税理士試験などの国家試験の前段階として位置づけられるだけでなく、すべての企業にとって必要不可欠な財務経理に必須の資格のため、就職活動において圧倒的に有利となる。また複式簿記は、営利企業に限らず、経済活動を営む非営利組織の経営成績と財政状態を明らかにするツールであるから、複式簿記の技術を身につけることにより、企業その他の組織の財務状況を分析し、投資選択、資金調達を選択、経営管理の選択に役立てることができる。会計的な知識や処理能力だけでなく、財務諸表を理解する力、基礎的な経営管理や分析力が身につく、経理担当者だけでなく、全ての社会人に役立つ知識といえよう。</p>
科目の到達目標 (理解のレベル)	<p>財務会計論と管理会計論の基礎的な知識と基礎的な会計判断・処理能力の修得を目標とする。</p> <p>具体的には、本講義では簿記の学習経験がない初学者を前提として、簿記の基本的な原理を理解し、仕訳や記帳、決算等の知識を習得し、日本商工会議所の検定試験3級と同等レベル以上の商業簿記の知識と処理能力の修得を目標とするが、基礎会計学 I では、簿記の基礎および期中取引を中心とした内容となる。</p> <p>現実の経済主体の活動への理解を促し、資格取得に十分な知識を得るとともに、就職活動や社会人として役に立つ簿記・会計の知識を得ることも目指す。</p>
授業形態	講義
授業方法	<p>基本は教室での対面式の授業となる。</p> <p>ただし、状況によりオンライン授業の必要がある場合には、Microsoft社のTeamsを使用して資料掲示と解説を行う。授業時間中、適宜演習を行う時間を設け、各自演習の後、解説を行う。また、適宜のタイミングで、授業の後には復習のための課題を課す。</p> <p>基本は教科書を用いた授業となるが、適宜レジュメも配布する。</p> <p>レジュメの配布方法は、教室での手渡しまたはmanabaiにより行う。また、自宅にプリンターがないことも考慮して、希望があれば、ネットワークプリンターでのレジュメの提供も行う。</p> <p>Teamsでの受講が難しい場合には、個別に対応するので、必ず連絡すること(sibamura@asia-u.ac.jp)。</p> <p>出席は教室での出欠確認またはResponを使用する。</p>
授業計画	<p>【第1回】テーマ:オリエンテーション、簿記の意義</p> <p>【第2回】テーマ:簿記一巡</p> <p>【第3回】テーマ:帳簿組織、主要簿</p> <p>【第4回】テーマ:商品売買(1)掛取引</p> <p>【第5回】テーマ:商品売買(2)仕入諸掛</p> <p>【第6回】テーマ:現金・現金過不足</p> <p>【第7回】テーマ:預金、手形、固定資産(1)固定資産の取得</p> <p>【第8回】問題演習(1)</p> <p>【第9回】テーマ:その他の債権債務(1)未収・未払、前払・前受</p> <p>【第10回】テーマ:その他の債権債務(2)立替・預り、仮払・仮受、その他の勘定科目</p> <p>【第11回】テーマ:純資産、収益・費用</p> <p>【第12回】テーマ:訂正仕訳、補助簿</p> <p>【第13回】問題演習(2)</p>
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。

事前・事後学修の内容	<p>復習に十分に時間をかけること。授業中に具体的な考え方、問題の解き方の教授を行うので、後からもう一度自分自身で問題に取り組み、理解と自信を深めてほしい。わからない問題はそのままにせず、何度でも質問して、納得した上で理解を深め定ほしい。解けなかった問題は、マイナスに捉えるのではなく、今後自分が復習すべきテーマと捉え、同じ問題を時間を置きながら繰り返し取り組み込んでほしい。</p> <p>何度も解くことによって、必ず解ける、正解に結びつく問題が少しずつ増えていき、自信にもつながる。それと同時に、是非、何を間違えたのかノートにメモしてほしい。そのノートには、自分の苦手なテーマが書かれているので、テストの前などの直前の復習にも役に立つ。</p>
成績評価方法・基準	<p>平常点: 30%(授業に対する姿勢)、学期末のテスト(Responへの回答、宿題、レポート、課題等)70%</p> <p>授業中に演習、解説を行う。同じ問題に取り組み、わからない所や疑問点があれば質問し、内容を理解して自分の解ける問題を増やしてほしい。また課題は理解度を確認するためのものなので、点数が悪いことで評価を下げたりしない。それよりも、課題に取り組む中で自分の苦手なところを見つけて、理解を深めてほしい。逆に、単に答えを書き写しただけ、問題を解かずに提出だけすることは、評価減の対象となる。</p>
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	<p>本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。</p>
教科書・指定図書	<p>(教科書) 『最新段階式 日商簿記検定問題集 3級 四訂版』実教出版、2019年。ISBN→978-4-407-34774-6</p>
履修上の留意点	<p>① 実際に練習問題に取り組むので、各自10ケタ以上の計算機を用意すること(スマートフォンや携帯電話などについている計算機は不可)。 ② 実際に何度も取り組むことによりその理解度が飛躍的に向上する。必ず復習を行い、問題に取り組んだ上で授業に参加すること。</p> <p>授業計画は、概ね、このシラバスの通りであるが、担当教員によって多少異なる場合もある。授業方法や教科書などはクラスごとに異なる場合もあるので、詳細は各クラスの「実行シラバス」を参照すること。</p>
更新日	2024/3/19

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EA113
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	<a href="https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html">https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html</a>
講義コード	1EA011310
講義名	基礎会計学ⅡB組
担当者名	芝村 礼子
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/C
備考	

科目の趣旨	複式簿記原理に基づいた企業会計は、企業や公企業などの現実の経済主体の活動の計測に用いられるので、経済学を学ぶ者が修得する価値のある学問である。本科目は複式簿記原理に基づく企業会計について、初心者を対象に、その基礎的な考え方や技術を学修し、多くの課題をこなすことにより、日本商工会議所簿記検定2級の水準まで達することを目標とし、2年次以降の上級科目の学修につながるように意図されている。「基礎会計学Ⅱ」では「基礎会計学Ⅰ」で扱わなかった領域について講義する。
授業の内容	<p>本講義は、基礎的なミクロ・マクロ経済学の学修者で複式簿記の学修経験がない物を対象として、財務会計論(商業簿記と財務諸表論)と管理会計論(工業簿記と原価計算)の基礎的な知識と基礎的な会計判断・処理能力の修得を目的とする。</p> <p>具体的には、日商簿記検定試験3級を中心に、基本的な考え方やしくみを講義した上で、実際に練習問題に取り組むことにより、経済学を学ぶ際に役立つだけでなく、実際に社会人になった時にも役に立つ知識やスキルの取得、資格取得の支援を行う。</p> <p>日商簿記検定試験は、公認会計士試験や税理士試験などの国家試験の前段階として位置づけられるだけでなく、すべての企業にとって必要不可欠な財務経理に必須の資格のため、就職活動において圧倒的に有利となる。また複式簿記は、営利企業に限らず、経済活動を営む非営利組織の経営成績と財政状態を明らかにするツールであるから、複式簿記の技術を身につけることにより、企業その他の組織の財務状況を分析し、投資選択、資金調達、経営管理の選択に役立てることができる。会計的な知識や処理能力だけでなく、財務諸表を理解する力、基礎的な経営管理や分析力が身につく、経理担当者だけでなく、全ての社会人に役立つ知識といえよう。</p>
科目の到達目標(理解のレベル)	<p>財務会計論と管理会計論の基礎的な知識と基礎的な会計判断・処理能力の修得を目標とする。</p> <p>具体的には、本講義では簿記の学習経験がない初学者を前提として、簿記の基本的な原理を理解し、仕訳や記帳、決算等の知識を習得し、日本商工会議所の検定試験3級と同等レベル以上の商業簿記の知識と処理能力の修得を目標とするが、基礎会計学Ⅱでは、決算を中心とした内容となる。</p> <p>現実の経済主体の活動への理解を促し、資格取得に十分な知識を得るとともに、就職活動や社会人として役に立つ簿記・会計の知識を得ることも目指す。</p>
授業形態	講義
授業方法	<p>基本は教室での対面式の授業となる。</p> <p>ただし、状況によりオンライン授業の必要がある場合には、Microsoft社のTeamsを使用して資料掲示と解説を行う。授業時間中、適宜演習を行う時間を設け、各自演習の後、解説を行う。また、適宜のタイミングで、授業の後には復習のための課題を課す。</p> <p>基本は教科書を用いた授業となるが、適宜レジュメも配布する。</p> <p>レジュメの配布方法は、教室での手渡しまたはmanabaiにより行う。また、自宅にプリンターがないことも考慮して、希望があれば、ネットワークプリンターでのレジュメの提供も行う。</p> <p>Teamsでの受講が難しい場合には、個別に対応するので、必ず連絡すること(sibamura@asia-u.ac.jp)。</p> <p>出席は教室での出席確認またはResponを使用する。</p>
授業計画	<p>【第1回】テーマ:期中取引の復習</p> <p>【第2回】テーマ:決算手続(1) 精算表</p> <p>【第3回】テーマ:決算手続(2) 売上原価の考え方、商品有高帳、売上原価の仕訳</p> <p>【第4回】テーマ:決算手続(3) 有形固定資産と減価償却、固定資産台帳</p> <p>【第5回】テーマ:決算手続(4) 貸倒損失と貸倒引当金、収益と費用</p> <p>【第6回】テーマ:決算手続(5) 経過勘定、その他決算手続</p> <p>【第7回】問題演習(1)</p> <p>【第8回】テーマ:推定簿記、貸借対照表、損益計算書</p> <p>【第9回】問題演習(2)</p> <p>【第10回】テーマ:帳簿の締め切り</p> <p>【第11回】テーマ:税金、剰余金、配当</p> <p>【第12回】テーマ:決算整理後試算表と財務諸表、帳簿の関係</p> <p>【第13回】問題演習(3)</p>
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。

事前・事後学修の内容	<p>復習に十分に時間をかけること。授業中に具体的な考え方、問題の解き方の教授を行うので、後からもう一度自分自身で問題に取り組み、理解と自信を深めてほしい。わからない問題はそのままにせず、何度でも質問して、納得した上で理解を深め定ほしい。解けなかった問題は、マイナスに捉えるのではなく、今後自分が復習すべきテーマと捉え、同じ問題を時間を置きながら繰り返し取り組みんでほしい。</p> <p>何度も解くことによって、必ず解ける、正解に結びつく問題が少しずつ増えていき、自信にもつながる。それと同時に、是非、何を間違えたのかノートにメモしてほしい。そのノートには、自分の苦手なテーマが書かれているので、テストの前などの直前の復習にも役に立つ。</p>
成績評価方法・基準	<p>平常点: 30%(授業に対する姿勢)、学期末のテスト(Responへの回答、宿題、レポート、課題等)70%</p> <p>授業中に演習、解説を行う。同じ問題に取り組み、わからない所や疑問点があれば質問し、内容を理解して自分の解ける問題を増やしてほしい。また課題は理解度を確認するためのものなので、点数が悪いことで評価を下げたりしない。それよりも、課題に取り組む中で自分の苦手なところを見つけて、理解を深めてほしい。逆に、単に答えを書き写しただけ、問題を解かずに提出だけすることは、評価減の対象となる。</p>
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	<p>本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。</p>
教科書・指定図書	<p>(教科書) 『最新段階式 日商簿記検定問題集 3級 四訂版』実教出版、2019年。ISBN→978-4-407-34774-6</p>
履修上の留意点	<p>① 実際に練習問題に取り組むので、各自10ケタ以上の計算機を用意すること(スマートフォンや携帯電話などについている計算機は不可)。 ② 実際に何度も取り組むことによりその理解度が飛躍的に向上する。必ず復習を行い、問題に取り組んだ上で授業に参加すること。</p> <p>授業計画は、概ね、このシラバスの通りであるが、担当教員によって多少異なる場合もある。授業方法や教科書などはクラスごとに異なる場合もあるので、詳細は各クラスの「実行シラバス」を参照すること。</p>
更新日	2024/3/19

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EA113
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	<a href="https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html">https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html</a>
講義コード	1EA011320
講義名	基礎会計学ⅡC組
担当者名	芝村 礼子
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/C
備考	

科目の趣旨	複式簿記原理に基づいた企業会計は、企業や公企業などの現実の経済主体の活動の計測に用いられるので、経済学を学ぶ者が修得する価値のある学問である。本科目は複式簿記原理に基づく企業会計について、初心者を対象に、その基礎的な考え方や技術を学修し、多くの課題をこなすことにより、日本商工会議所簿記検定2級の水準まで達することを目標とし、2年次以降の上級科目の学修につながるように意図されている。「基礎会計学Ⅱ」では「基礎会計学Ⅰ」で扱わなかった領域について講義する。
授業の内容	<p>本講義は、基礎的なミクロ・マクロ経済学の学修者で複式簿記の学修経験がない物を対象として、財務会計論(商業簿記と財務諸表論)と管理会計論(工業簿記と原価計算)の基礎的な知識と基礎的な会計判断・処理能力の修得を目的とする。</p> <p>具体的には、日商簿記検定試験3級を中心に、基本的な考え方やしくみを講義した上で、実際に練習問題に取り組むことにより、経済学を学ぶ際に役立つだけでなく、実際に社会人になった時にも役に立つ知識やスキルの取得、資格取得の支援を行う。</p> <p>日商簿記検定試験は、公認会計士試験や税理士試験などの国家試験の前段階として位置づけられるだけでなく、すべての企業にとって必要不可欠な財務経理に必須の資格のため、就職活動において圧倒的に有利となる。また複式簿記は、営利企業に限らず、経済活動を営む非営利組織の経営成績と財政状態を明らかにするツールであるから、複式簿記の技術を身につけることにより、企業その他の組織の財務状況を分析し、投資選択、資金調達、経営管理の選択に役立てることができる。会計的な知識や処理能力だけでなく、財務諸表を理解する力、基礎的な経営管理や分析力が身につく、経理担当者だけでなく、全ての社会人に役立つ知識といえよう。</p>
科目の到達目標(理解のレベル)	<p>財務会計論と管理会計論の基礎的な知識と基礎的な会計判断・処理能力の修得を目標とする。</p> <p>具体的には、本講義では簿記の学習経験がない初学者を前提として、簿記の基本的な原理を理解し、仕訳や記帳、決算等の知識を習得し、日本商工会議所の検定試験3級と同等レベル以上の商業簿記の知識と処理能力の修得を目標とするが、基礎会計学Ⅱでは、決算を中心とした内容となる。</p> <p>現実の経済主体の活動への理解を促し、資格取得に十分な知識を得るとともに、就職活動や社会人として役に立つ簿記・会計の知識を得ることも目指す。</p>
授業形態	講義
授業方法	<p>基本は教室での対面式の授業となる。</p> <p>ただし、状況によりオンライン授業の必要がある場合には、Microsoft社のTeamsを使用して資料掲示と解説を行う。授業時間中、適宜演習を行う時間を設け、各自演習の後、解説を行う。また、適宜のタイミングで、授業の後には復習のための課題を課す。</p> <p>基本は教科書を用いた授業となるが、適宜レジュメも配布する。</p> <p>レジュメの配布方法は、教室での手渡しまたはmanabaiにより行う。また、自宅にプリンターがないことも考慮して、希望があれば、ネットワークプリンターでのレジュメの提供も行う。</p> <p>Teamsでの受講が難しい場合には、個別に対応するので、必ず連絡すること(sibamura@asia-u.ac.jp)。</p> <p>出席は教室での出席確認またはResponを使用する。</p>
授業計画	<p>【第1回】テーマ:期中取引の復習</p> <p>【第2回】テーマ:決算手続(1) 精算表</p> <p>【第3回】テーマ:決算手続(2) 売上原価の考え方、商品有高帳、売上原価の仕訳</p> <p>【第4回】テーマ:決算手続(3) 有形固定資産と減価償却、固定資産台帳</p> <p>【第5回】テーマ:決算手続(4) 貸倒損失と貸倒引当金、収益と費用</p> <p>【第6回】テーマ:決算手続(5) 経過勘定、その他決算手続</p> <p>【第7回】問題演習(1)</p> <p>【第8回】テーマ:推定簿記、貸借対照表、損益計算書</p> <p>【第9回】問題演習(2)</p> <p>【第10回】テーマ:帳簿の締め切り</p> <p>【第11回】テーマ:税金、剰余金、配当</p> <p>【第12回】テーマ:決算整理後試算表と財務諸表、帳簿の関係</p> <p>【第13回】問題演習(3)</p>
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。

事前・事後学修の内容	<p>復習に十分に時間をかけること。授業中に具体的な考え方、問題の解き方の教授を行うので、後からもう一度自分自身で問題に取り組み、理解と自信を深めてほしい。わからない問題はそのままにせず、何度でも質問して、納得した上で理解を深め定ほしい。解けなかった問題は、マイナスに捉えるのではなく、今後自分が復習すべきテーマと捉え、同じ問題を時間を置きながら繰り返し取り組み込んでほしい。</p> <p>何度も解くことによって、必ず解ける、正解に結びつく問題が少しずつ増えていき、自信にもつながる。それと同時に、是非、何を間違えたのかノートにメモしてほしい。そのノートには、自分の苦手なテーマが書かれているので、テストの前などの直前の復習にも役に立つ。</p>
成績評価方法・基準	<p>平常点:30%(授業に対する姿勢)、学期末のテスト(Responへの回答、宿題、レポート、課題等)70%</p> <p>授業中に演習、解説を行う。同じ問題に取り組み、わからない所や疑問点があれば質問し、内容を理解して自分の解ける問題を増やしてほしい。また課題は理解度を確認するためのものなので、点数が悪いことで評価を下げたりしない。それよりも、課題に取り組む中で自分の苦手なところを見つけて、理解を深めてほしい。逆に、単に答えを書き写しただけ、問題を解かずに提出だけすることは、評価減の対象となる。</p>
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	<p>本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。</p>
教科書・指定図書	<p>(教科書) 『最新段階式 日商簿記検定問題集 3級 四訂版』実教出版、2019年。ISBN→978-4-407-34774-6</p>
履修上の留意点	<p>① 実際に練習問題に取り組むので、各自10ケタ以上の計算機を用意すること(スマートフォンや携帯電話などについている計算機は不可)。 ② 実際に何度も取り組むことによりその理解度が飛躍的に向上する。必ず復習を行い、問題に取り組んだ上で授業に参加すること。</p> <p>授業計画は、概ね、このシラバスの通りであるが、担当教員によって多少異なる場合もある。授業方法や教科書などはクラスごとに異なる場合もあるので、詳細は各クラスの「実行シラバス」を参照すること。</p>
更新日	2024/3/19

開設	経済学部経済学科
科目ナンバー	EE205
カリキュラム・マップ(学位授与方針との関連)	<a href="https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html">https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html</a>
講義コード	1EF001200
講義名	租税論Ⅱ
担当者名	臼井 邦彦
開講情報	
単位数	2
受講可能学部	B/E/L
備考	

科目の趣旨	我々の諸活動の様々な面で不可欠のかわりを持つ租税について、経済学を学ぶ学生が身につけておくべき理論面の知識を学修する。具体的には、租税の根拠論、租税の公平性、応能説に基づく犠牲説、応益説に基づくリンドールメカニズム、租税の中立性、余剰分析に基づく超過粉炭の最小化、徴収費用と納税協力費用の最小化、マクロ政策などの良い租税の条件(租税原則)、租税負担の転嫁と帰着、租税が労働供給や貯蓄に与えるインセンティブなどを理解することを目標とする。アプローチは学説の歴史的展開ならびにミクロ経済学とマクロ経済学の基本的な知識を前提とした分析手法を用いる。租税論Ⅰで具体的な租税を学修していることを前提とする科目であるとともに、経済専門キャリア特講(税務会計)の科目と密接に関係し相互に有用な科目である。
授業の内容	租税は資本主義経済において、国家が国有財産を放棄する代わりに取得した課税権によって財源を確保する手段である。1970年代から1980年代は税制改革論争が活発であった。政府税制調査会が機能していたし、消費税導入に向けて社会全体も盛り上がっていたからでもある。日本型付加価値税と呼ばれたわが国消費税が曲がりなりに導入され、「ああ、よかった」と安どしていたら、最近になって、実は、我が国の消費税は第二法人税だという議論があちこちで起こっている。最近の税制改革も変である。ちゃんとした議論がなされていない。こんなはずではなかった、というのが最近の感想である。財源論ばかりが先行し、租税の理論や税制改革論議がきちんとなされていない。このような問題意識の下で本講義は展開する。まず租税の定義と分類から始まり、現在の制度の成り立ちとその背景、日露戦争の戦費調達のために創設された所得税と相続税、英国の税制を目指した設計、太平洋戦争の敗戦後のシャープ勧告の影響で作られた現在の税制、石油ショックにより見直された最低生活費の免除額、低経済成長の下で導入が求められた大型間接税、1980年代の公平性よりも経済成長重視の風潮の下でのレーガン税制改革論、フラットタックス、二元的所得税論など、多国籍企業の台頭による税源喪失に対抗する移転価格税制までを講義していく。
科目の到達目標(理解のレベル)	学生は、本講義を通じて、税に関する国会の議論や税制改革の内容をきちんと理解し、投票のときに正しい判断ができるようになる。
授業形態	講義
授業方法	定期試験のとき以外、紙ベースの配布物は用意しない。すべてmanabaを通じて配信する。もつぱら、黒板に板書しながら、口頭で話すので、集中する必要がある。授業終了時の質問はすべて授業で話した内容から出す。
授業計画	<p>【第1回】 租税の定義と課税の根拠</p> <p>【第2回】 租税の分類と公平な租税負担配分原理</p> <p>【第3回】 租税転嫁論と外形標準課税</p> <p>【第4回】 担税力と費消力</p> <p>【第5回】 所得の源泉説と分類所得税</p> <p>【第6回】 包括的所得概念と総合所得税</p> <p>【第7回】 シャープ勧告と我が国所得税</p> <p>【第8回】 相続税、贈与税、法人税と所得税</p> <p>【第9回】 インフレーションと最低生活費の免除</p> <p>【第10回】 限界税率と勤労阻害効果</p> <p>【第11回】 累進課税と比例課税</p> <p>【第12回】 フラットタックスとレーガン税制改革</p> <p>【第13回】 多国籍企業への移転価格税制</p> <p>上記の他、定期試験を行う</p>
事前・事後学修に必要な時間	なお本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	毎回の授業の最後に次回の授業の予告と参考資料を知らせるので、それらの資料をよく読んでおく必要がある。毎回の授業終了時にその授業の内容から質問をレポートで出題するので、それに応じてレポートを提出しなければならない。授業終了後は定期試験に備えて復習しなければならない。

	らない。
成績評価方法・基準	定期試験70%、毎回のレポート30パーセント。
課題(試験やレポート等)についてのフィードバック方法	本授業での課題(試験やレポート等)の講評・解説については授業内(口頭)もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	教科書は使用しない。参考資料は毎回の授業で紹介する。インターネット入手可能な資料が多い。
履修上の留意点	財政学、公共経済学は履修しておくのが望ましい。可能ならば法学部の租税法も履修しておくこと。
更新日	2024/3/19